

2025年度 中間決算説明会

2025年12月1日



この挑戦が、未来となる。

ちゅうぎんフィナンシャルグループ

2024
年度

5期連続の増益

親会社株主に
帰属する当期純利益

274億円

(前年比+61億円)

2025
年度

中計KPI※ 1年前倒し達成

親会社株主に
帰属する当期純利益

350億円

(前年比+76億円)

※期初予想から**20億円**上方修正

2026
年度

更なる利益成長へ

親会社株主に
帰属する当期純利益

400億円以上

ROE

7%以上

※中計KPI (当初)

2026年度 「親会社株主に帰属する当期純利益300億円」、「ROE5%以上」

I . 2025年度中間決算および2025年度業績予想

- 2025年度中間決算
 - 概要 5
 - 資金利益（銀行単体） 6
 - フィービジネス関連収益（グループ合算） 7
 - 経費・与信費用（銀行単体） 8
- 2025年度業績予想 9
- 株主還元 10
- 政策投資株式 11



II . 企業価値向上に向けて

- 中期経営計画の概要と進捗状況 13
- 長期経営計画での取組み 16
- キャピタルアロケーション 17
- 今後の取組み
 - トップラインの増強 20
 - 預金獲得、人員の捻出・戦略再配置 29
 - 持続的な成長 31
- 最後に 38

III . Appendix

- 主要計数 41

第 I 部

2025年度 中間決算

および

2025年度 業績予想

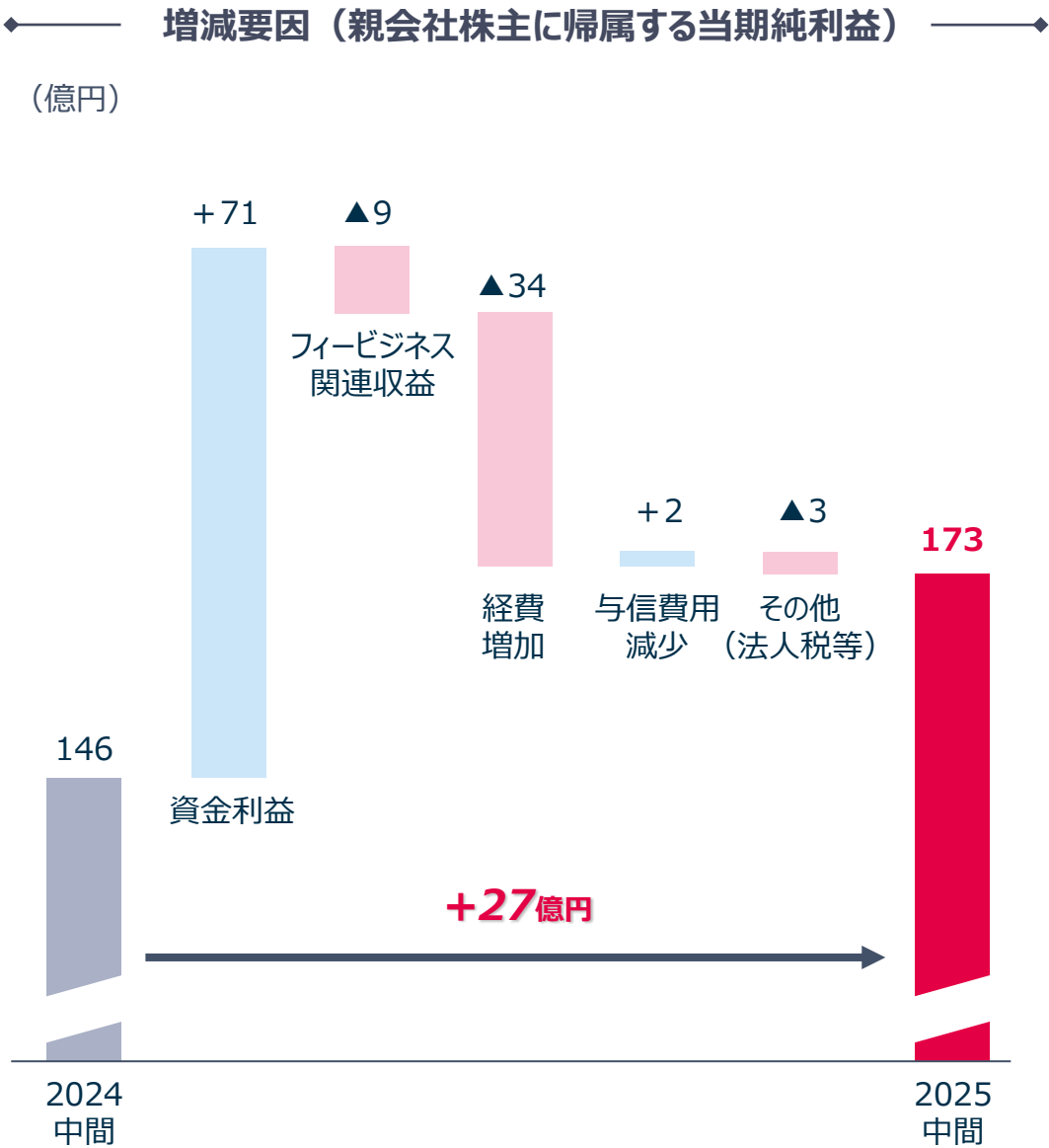
資金利益の伸びを主因に前年比増益

※2025.5.14 公表利益

ちゅうぎんフィナンシャルグループ連結 (億円)	2024年度 中間	2025年度 中間	※2025.5.14 公表利益	
			前年比	公表比※
連結経常利益	209	252	43	18
親会社株主に帰属する当期純利益	146	173	27	15

<参考：中国銀行単体>

コア業務粗利益	497	564	67	－
経費（▲）	267	301	34	－
コア業務純益	230	263	33	－
与信費用（▲）	35	33	▲ 2	－
有価証券関係損益	▲ 5	▲ 0	5	－
経常利益	191	234	43	－
当期純利益	137	165	28	－



【資金利益の内訳（銀行単体）】

(億円)		2024年度 中間	2025年度 中間	前年比
① 資金利益		369	440	71
	邦貨資金利益	318	374	56
	うち、貸出金利息	235	320	85
	うち、有価証券利息	104	136	32
	うち、投資信託解約損益	0	▲ 11	▲ 11
	外貨資金利益	51	66	15
	運用収益	381	325	▲ 56
	調達コスト（▲）	330	258	▲ 72
その他業務利益		12	6	▲ 6
② うち、外貨調達コスト(▲)		1	▲ 1	▲ 2
(参考)				
①+② 資金利益（実質）		368	441	73

邦貨資金利益が大きく伸長

【フィービジネス関連収益の内訳（グループ合算）】

(億円)		2024年度 中間	2025年度 中間	前年比
フィービジネス関連収益		165	156	▲ 9
中国銀行		130	124	▲ 6
①	投資銀行業務	28	30	2
	預り資産関連	34	27	▲ 7
	その他役務利益	53	59	6
(役務利益計上額)				
①	デリバティブ手数料等	14	7	▲ 7
中国銀行以外のグループ会社（※）		35	31	▲ 4
②	中銀リース	11	6	▲ 5
	中銀カード	4	5	0
	ちゅうぎんヒューマンイノベーションズ	0.6	0.7	0.1
	Cキューブ・コンサルティング	1	2	1
	中銀証券	14	13	▲ 1
	中銀アセットマネジメント	2	3	1
うち 法人ソリューション関連収益		61	52	▲ 9
うち 預り資産関連収益		51	44	▲ 7

投資銀行業務（法人フィー）・
その他役務利益が着実に拡大

一部、マーケット要因 ① や大口
案件の剥落 ② により前年比減少

※中銀リースは粗利益、それ以外のグループ会社は営業収益（内部取引控除後）

【経費の内訳（銀行単体）】

(億円)	2024年度 中間	2025年度 中間	前年比
経費	267	301	34
人件費	140	149	9
システム経費	32	42	10
その他物件費	60	66	6
預金保険料	5	5	0
経営管理料 ※	10	17	7
税金	17	20	3

※持ち株会社へ支払う経費（FG連結では相殺）

OHR 53.7% 53.3% ▲ 0.4pt

【与信費用の内訳（銀行単体）】

(億円)	2024年度 中間	2025年度 中間	前年比
与信費用	35	33	▲ 2
一般貸倒引当金繰入	▲ 0	17	17
個別貸倒引当金繰入	35	16	▲ 19
その他の与信費用 ※	▲ 0	0	0

※貸出金償却、特定海外債権引当、債権売却損失引当、債権売却損、償却債権取立益

■ 一般貸倒引当金の算定方法

- ・3年間で1算定期間とし、各貸倒実績率から予想損失率を算出。（各算定期間は半年ずらし）
- ・予想損失率は、「直近3算定期間平均」、「直近5算定期間平均」、「2008/9期を期首とした長期平均」のいずれか高いものを使用。（2022/9期より変更）
- ・「正常先」「要注意先Ⅰ」債権については、貸出債権の平均残存年数を考慮した調整を行っている。

ベースアップ・戦略投資等を実施
（計画通り）

低位安定

ちゅうぎんフィナンシャルグループ連結 (億円)	2025年度 修正予想	前年比	期初予想比
連結経常利益	500	117	24
親会社株主に帰属する当期純利益	350	76	20

<参考：中国銀行単体>

コア業務粗利益	1,144	147	33
うち、資金利益	886	123	29
うち、役務利益	237	21	9
経費（▲）	617	65	▲ 10
コア業務純益	526	81	42
与信費用（▲）	70	▲ 64	▲ 5
有価証券関係損益	▲ 7	▲ 32	▲ 22
経常利益	458	113	25
当期純利益	322	70	19

親会社株主に
帰属する当期純利益 **350**億円

前年比 **+ 76**億円

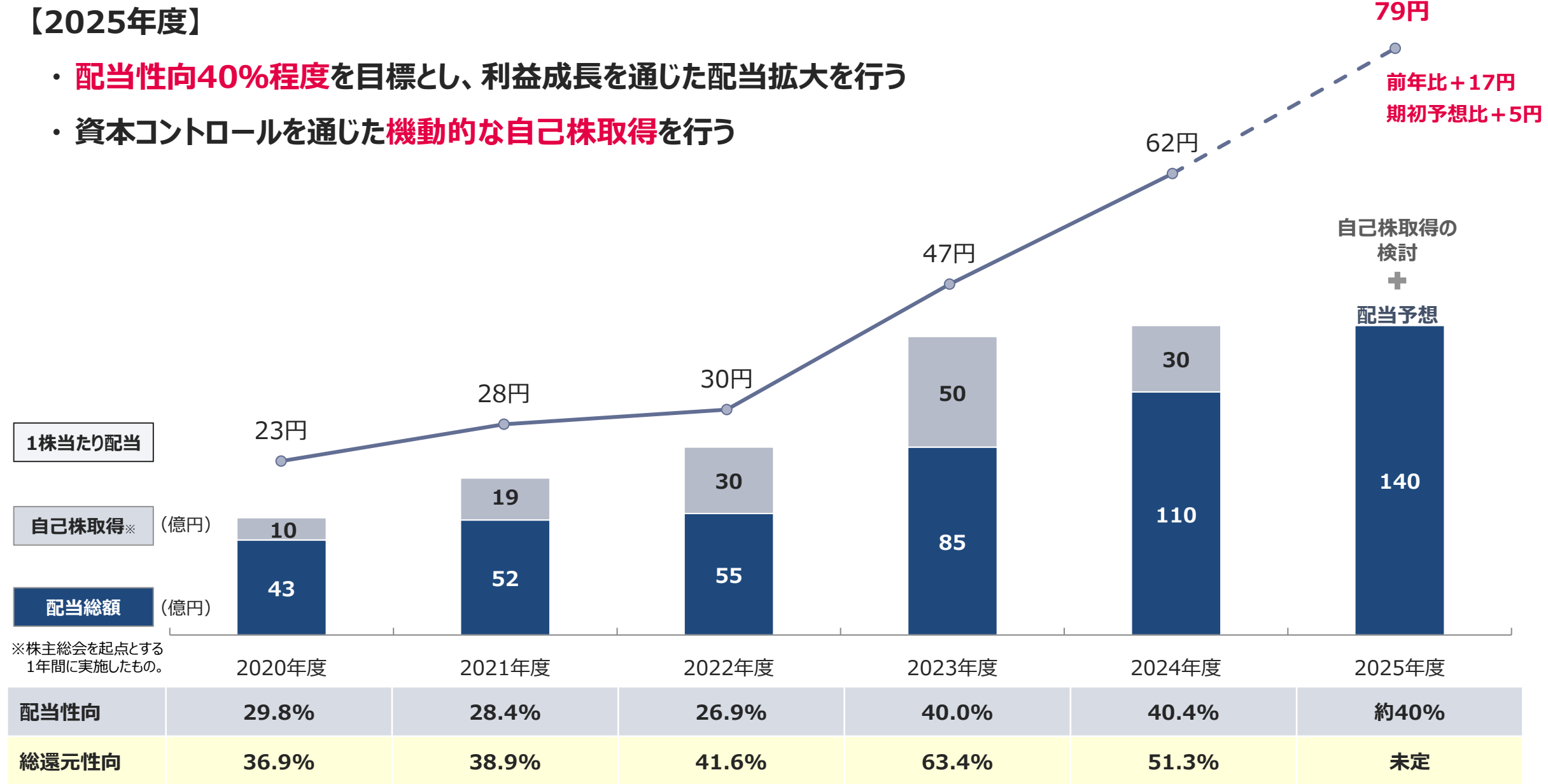
✓ 中国銀行が業績を牽引
(トップライン拡大、与信費用減少)

期初予想比 **+ 20**億円

✓ 中間実績の上振れ
✓ 有価証券入替の効果

【2025年度】

- ・ 配当性向40%程度を目標とし、利益成長を通じた配当拡大を行う
- ・ 資本コントロールを通じた機動的な自己株取得を行う



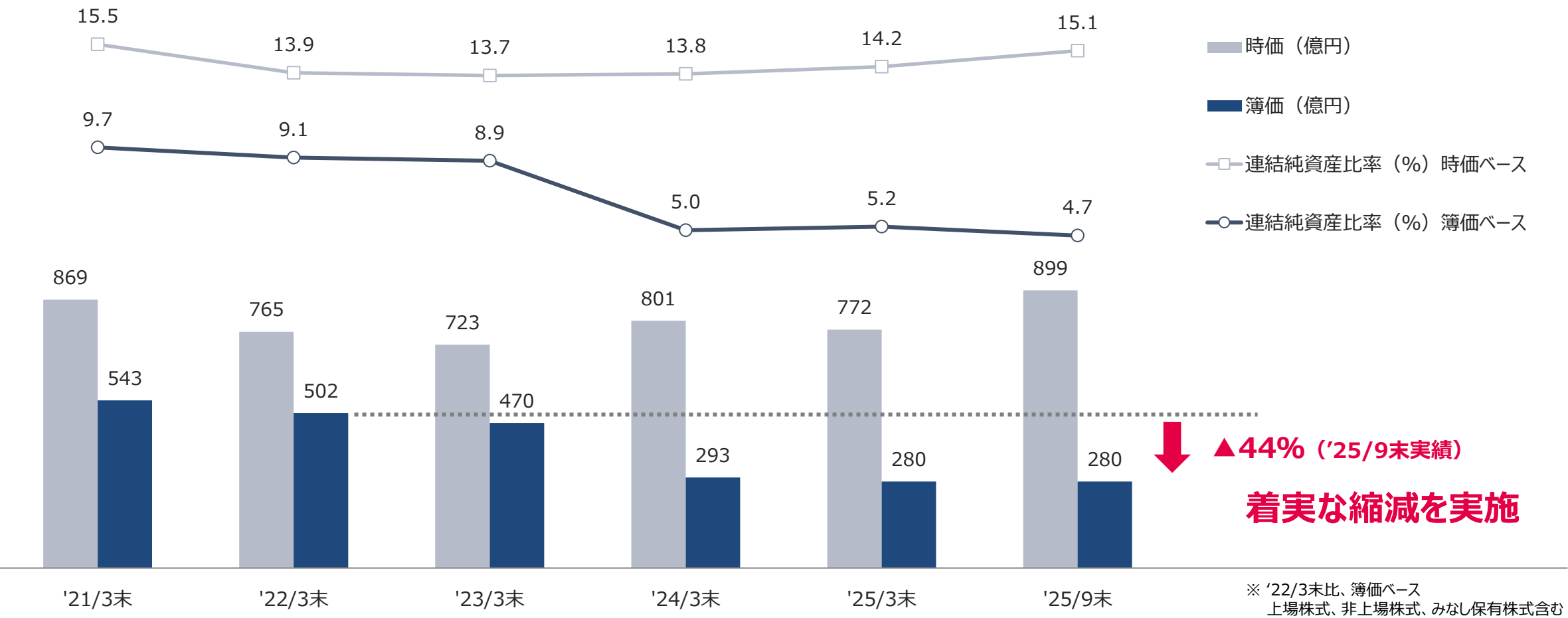
※株主総会を起点とする
1年間に実施したもの。

’20年度以降：中国銀行連結利益ベース、’22年度以降：ちゅうぎんFG連結利益ベース

【基本方針】

- ・ 保有先および当社グループの持続的な成長や企業価値の向上に必要と判断される場合に限定的に保有する。
- ・ 資本の効率性や株式保有リスクの抑制等の観点から、保有先との対話を通じながら縮減を進める。

縮減計画
(’27年3月末)
50%縮減※



第Ⅱ部

企業価値向上に向けて

中期経営計画
「未来共創プラン ステージⅢ」
2023.4～2027.3

成果発揮・新たな挑戦

1 地方創生SDGsの「深化」

地域の魅力・ポテンシャルを引き出し「**地域の持続的な発展**」に貢献します

2 イノベーションの創出

次なる成長に向けた「**新たな価値**」を創造します

3 グループ経営基盤の強化

成長戦略を実行するための「**強固な土台**」を築きます

● 財務KPIの状況

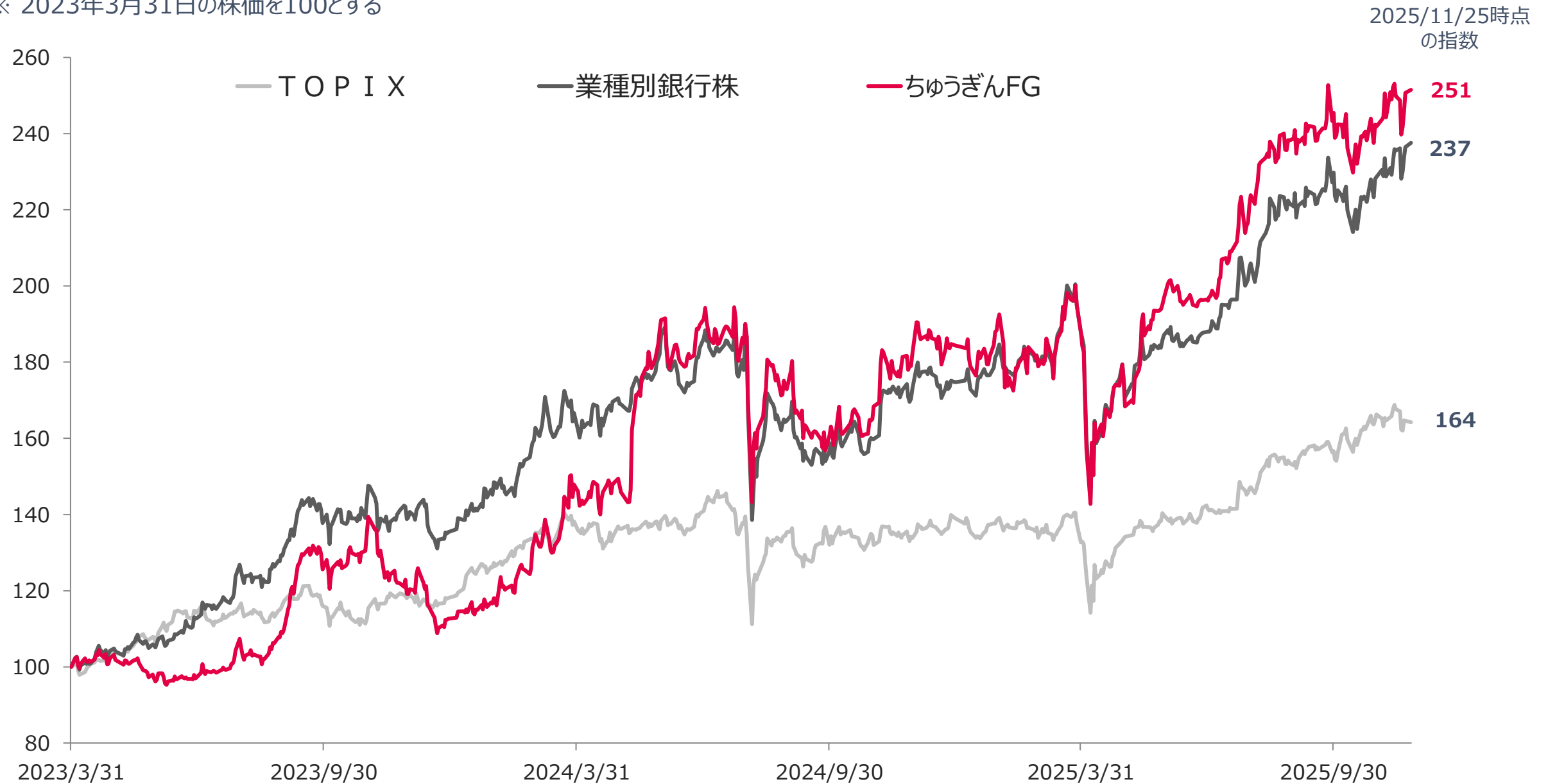
財務KPI	2026年度目標	2025中間実績	【参考】2024年度実績
➢ 親会社株主に帰属する当期純利益	上方修正 400億円以上 300億円	173億円	274億円
➢ ROE	上方修正 7%以上 5%以上	-	4.88%
➢ 普通株式等Tier1比率（有価証券評価差額金等除く）	11～12%	11.50%	11.58%

ROEは東証水準（その他有価証券評価差額金を含むベース）

● 非財務KPI（サステナビリティKPI）の状況

成長戦略	サステナビリティKPI	2026年度目標	2025中間実績	【参考】2024年度実績
1 地方創生SDGs の「深化」	➢ CO2排出量削減（2013年度対比）	▲72%	-	▲65%
	➢ サステナブルファイナンス累計実行額	上方修正 1.5兆円 1兆円	1兆2,596億円	1兆1,525億円
	➢ コンサルティング受託件数（年間）	460件	235件	380件
	➢ 預り5商品保有先数および住宅ローン先数	26万先	22.3万先	22万先
	➢ 相続関連業務取扱件数（年間）	800件	458件	734件
2 イノベーション の創出	➢ 業務モデル変革（業務・チャネル・組織）	定性評価	-	-
3 グループ経営基盤 の強化	➢ 女性管理・監督者比率（BK単体）	25%	23.6%	22.9%
	➢ 人的資本投資額	上方修正 10億円 5億円	3億円	5億円

※ 2023年3月31日の株価を100とする



親会社株主に帰属する当期純利益（億円）

更なる利益成長へ
400以上

5期連続の増益



金利前提

- 【国内】
- ・政策金利
'25下期～ 0.75%
'26下期～ 1.00%
 - ・国債10年
'25下期 1.40%
'26年度 1.50%
- 【海外】
- ・FF金利
'25下期～ 4.25%
'26上期～ 4.00%

ステージ I
2017.4～2020.3

構造改革（ハード面強化）

- B P R投資（事務から営業へ）

ステージ II
2020.4～2023.3

行動改革（ソフト面強化）

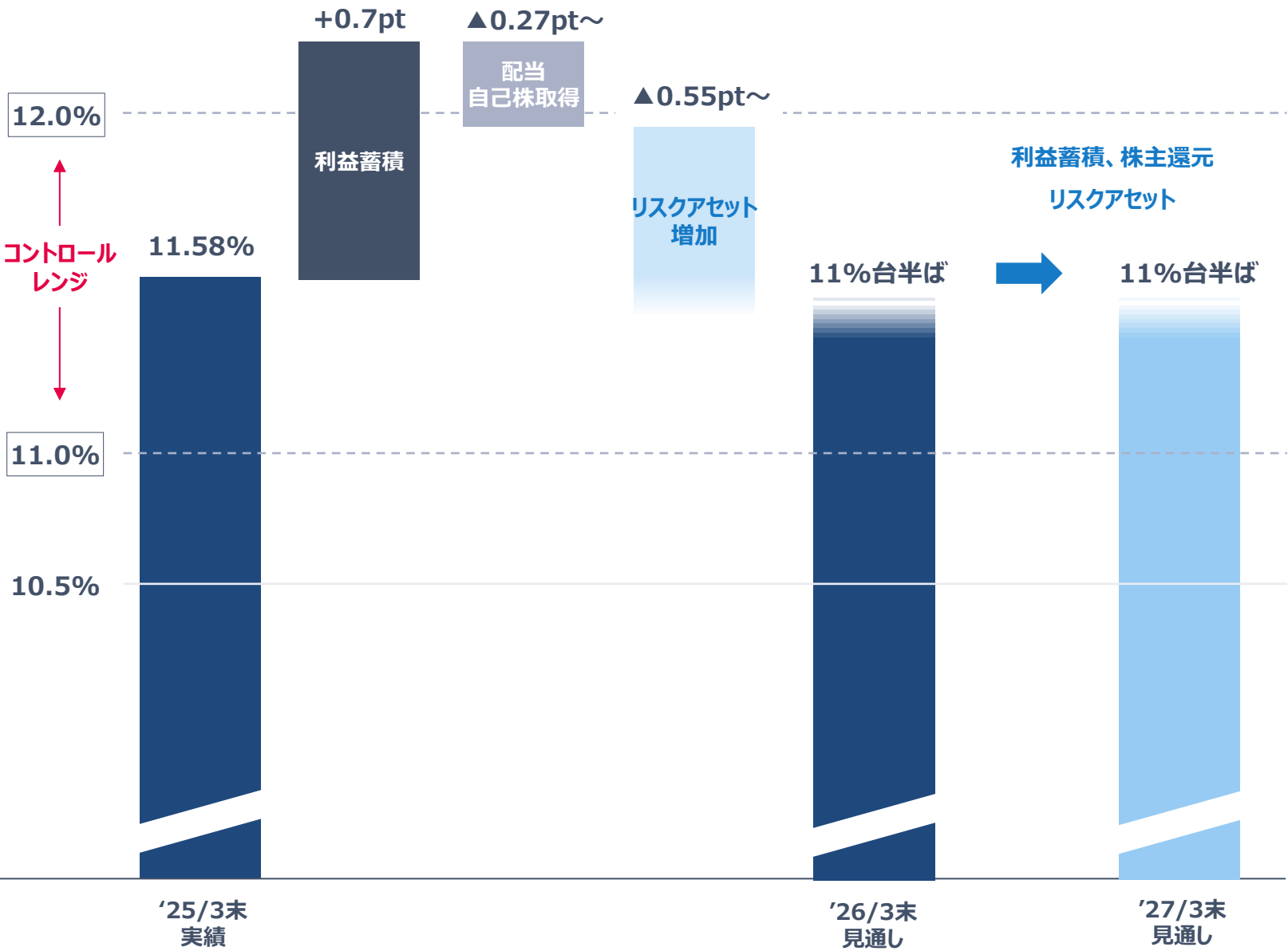
- 自律的営業体制・人事制度
- 新事業開拓加速
- 持株会社体制移行

ステージ III
2023.4～2027.3

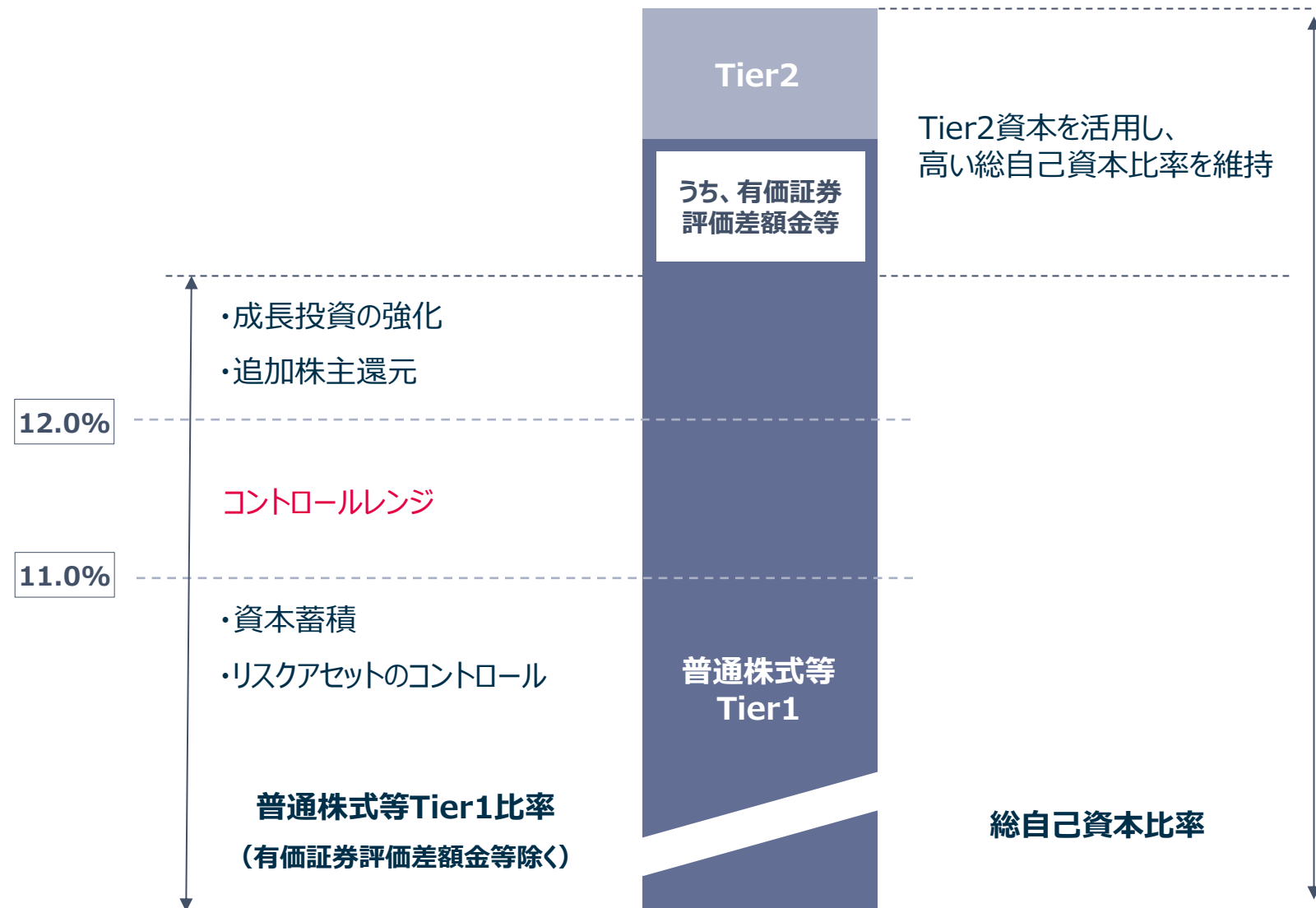
成果発揮・新たな挑戦

- ちゅうぎんDX戦略
- ユニット体制構築

普通株式等Tier1比率（FG連結・有価証券評価差額金等除く）



資本コントロールの実施により
良質なアセットを積上げ



強固な健全性と
高い資本効率を両立

1.

トップラインの増強

- ✓ ユニット体制を活かして各戦略・施策を加速

2.

預金獲得、人員の捻出・戦略再配置

- ✓ アセットの積上げに重要な粘着性の高い預金を獲得
- ✓ 業務プロセスの改革を通して、注力分野へ人員をシフト

3.

持続的な成長

- ✓ 地域・お客さま・従業員と分かち合える豊かな未来を共創（経営理念の実践）



- ✓ 役割の明確化
- ✓ 迅速な意思決定
- ✓ グループの総合力発揮

各戦略・施策の取組みを加速

地元事業性

地域特性

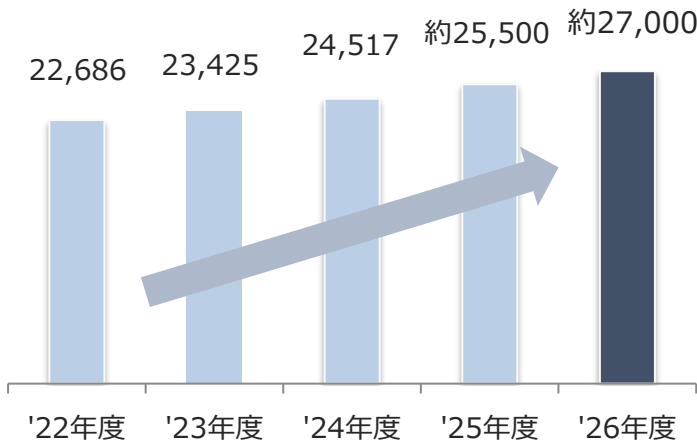
製造業（水島コンビナート）
物流（交通の要衝）
船舶（瀬戸内の海事産業）
など

ニーズ・課題

人手不足、事業承継
脱炭素、DX対応
金利環境の変化
など

ちゅうぎんFGのソリューション

平残推移（億円）



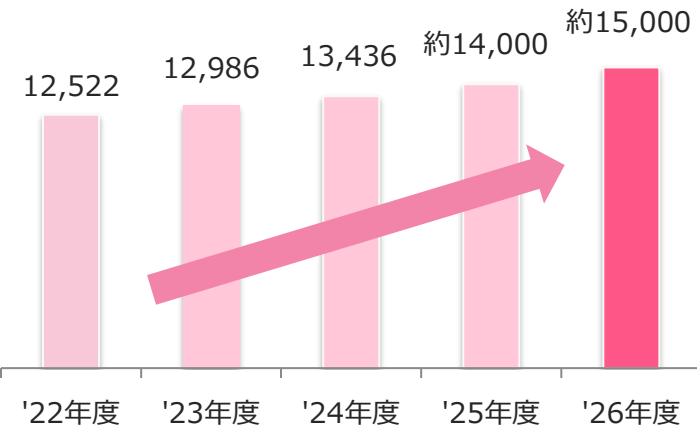
個人ローン

業務プロセス改革（住宅ローン申込）



オンライン完結による利便性向上・審査時間短縮により
申込件数増加

平残推移（億円）



地元を中心に
良質なアセットを積上げ

幅広いソリューションメニュー

ちゅうぎんヒューマンイノベーションズ

地域商社 せとのわ

ちゅうぎんエナジー

Cキューブ・コンサルティング

ちゅうぎんキャピタルパートナーズ

中銀カード

中銀リース

中銀アセットマネジメント

中銀証券

中国銀行

・中銀事務センター

・中銀保証

・CBS

ヒト

モノ

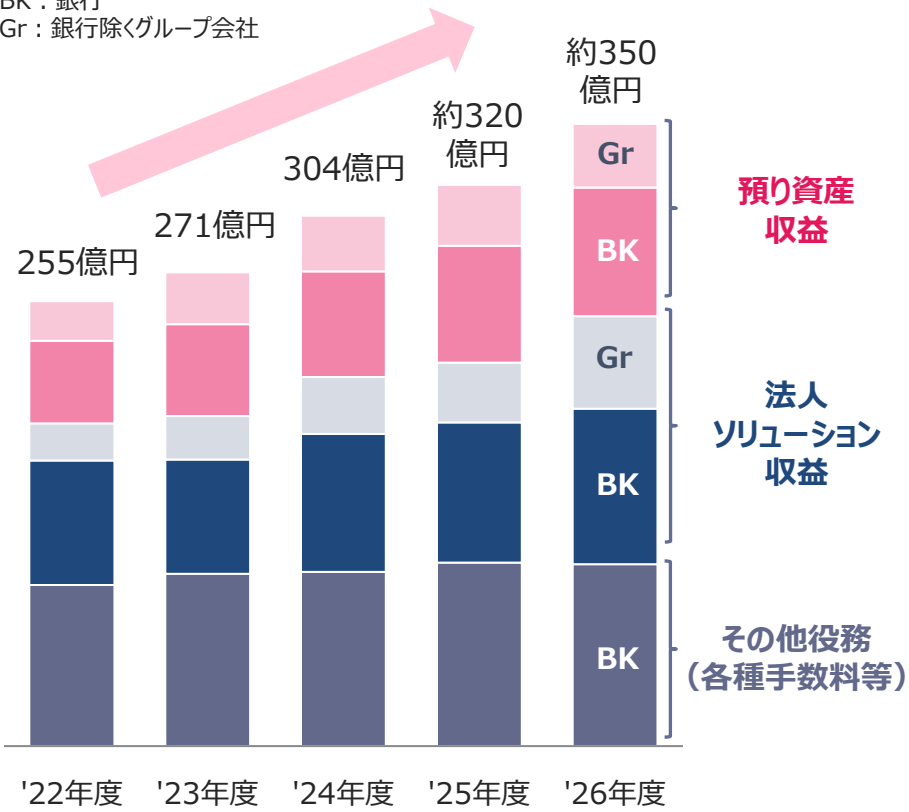
カネ

銀行→グループ会社
連携件数
約**120%**
(’22年度→’24年度)

更なる
連携強化へ

フィービジネス関連収益推移

BK：銀行
Gr：銀行除くグループ会社



グループ一体で
コンサルティング収益を拡大

地元事業性

重点領域
（法人戦略）

お客さまの課題・ニーズに応えるため、6つの領域の取組みを強化

船舶ファイナンス

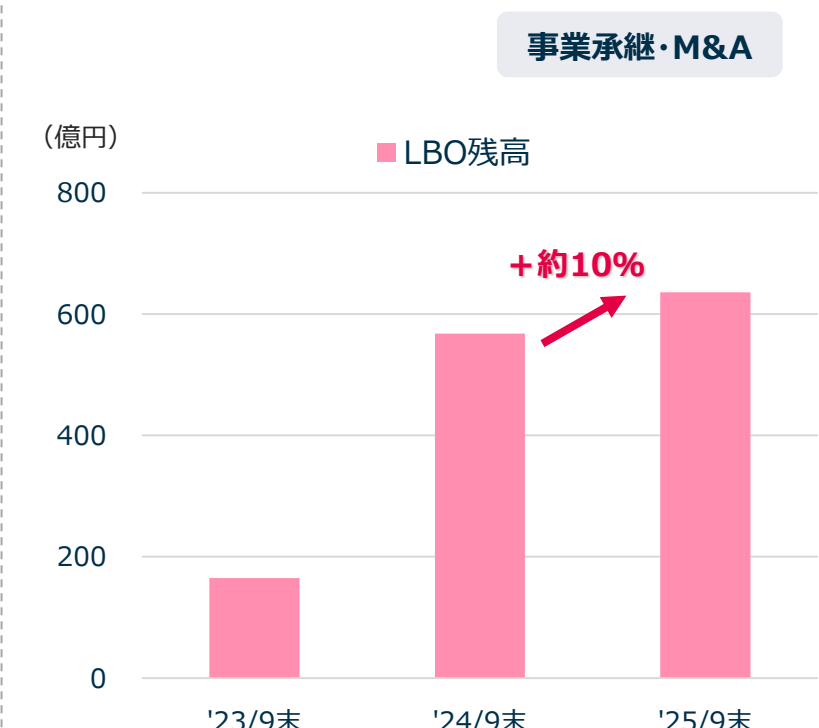
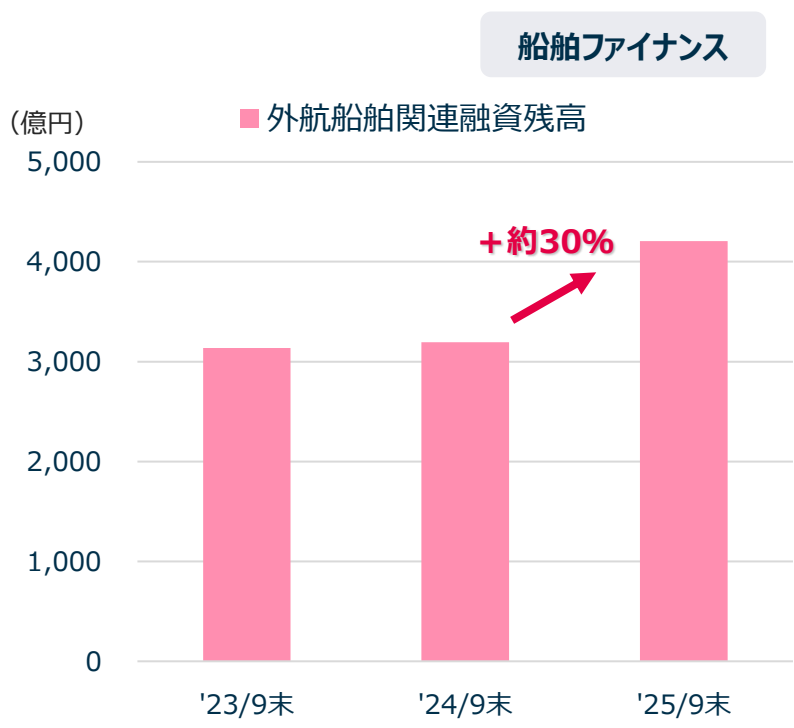
脱炭素化支援

売上向上・新規事業

人手不足・働き方改革

事業承継・M&A

スタートアップ・ベンチャー育成支援



マーケット環境

×

私たちの強み

↓

アセットの積上げ

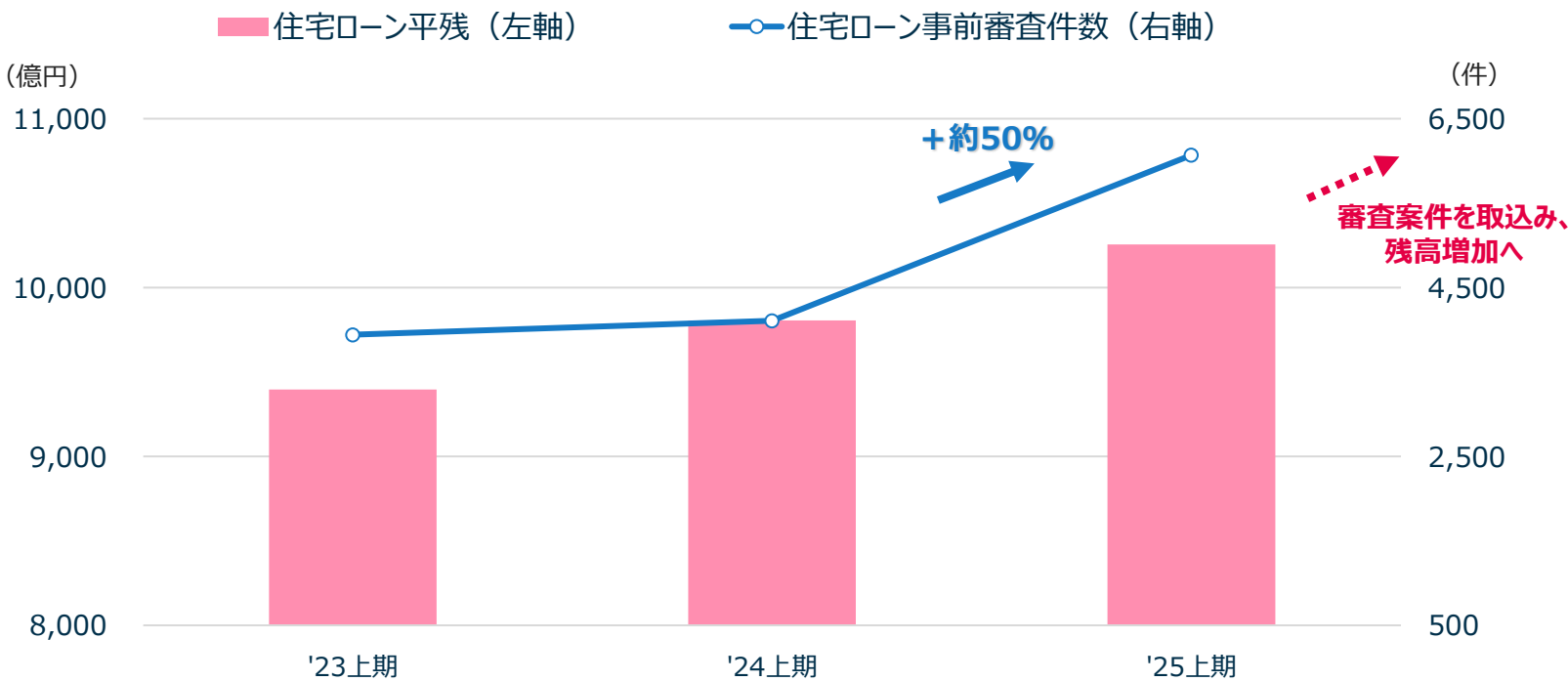
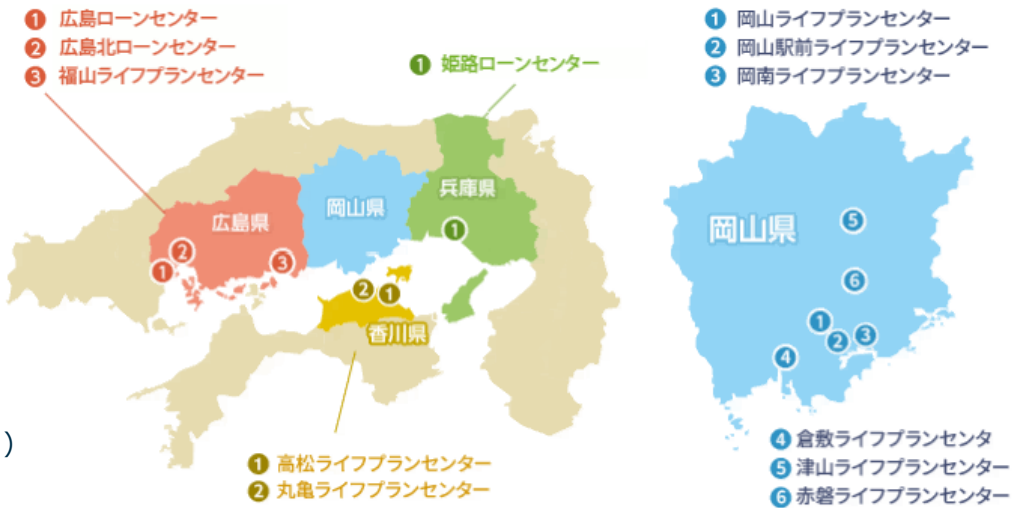
個人ローン

✓ 業務プロセス改革（住宅ローン申込）

- ’24年7月～
- ・オンライン完結による利便性向上
 - ・審査時間短縮

✓ アプローチ拠点の強化

ライフプランセンターの新設
※岡山駅前（’24年8月）丸亀（’24年9月）
岡南（’25年9月）高松（’25年11月）



マーケット環境

×

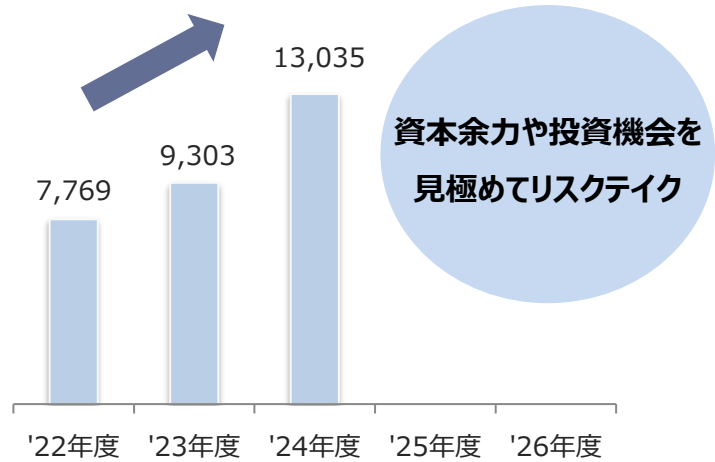
私たちの強み

↓

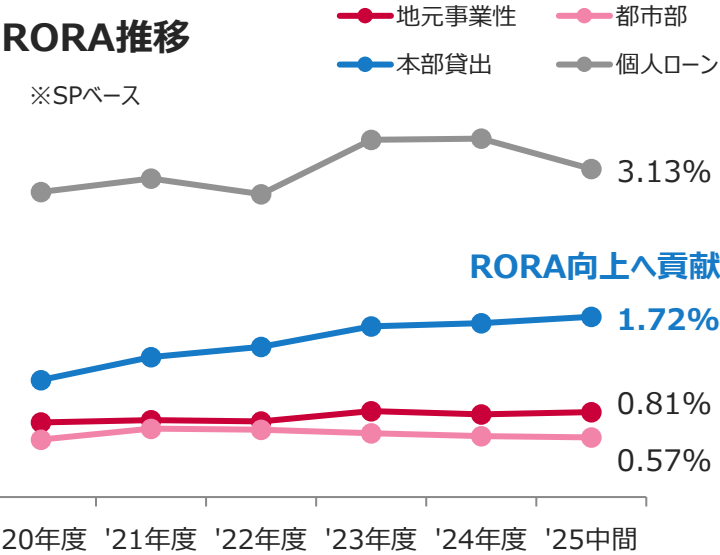
アセットの積上げ

ストラクチャードファイナンスの取組み（本部貸出）

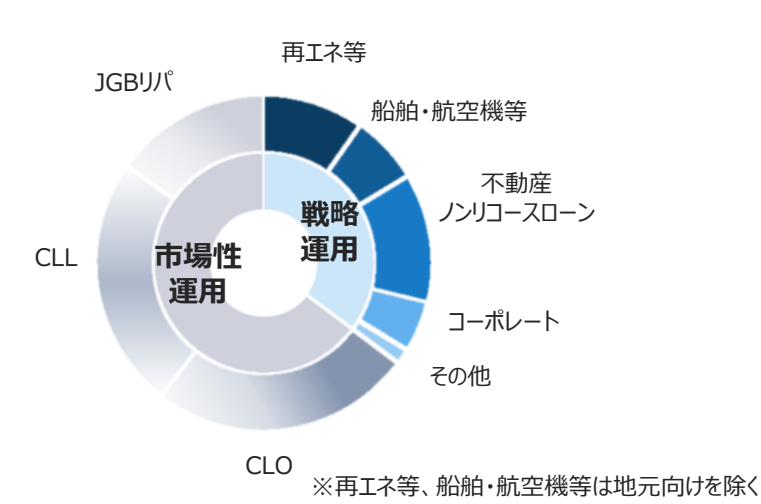
平残推移（億円）



RORA推移



残高構成比（'25/9末時点）



戦略運用

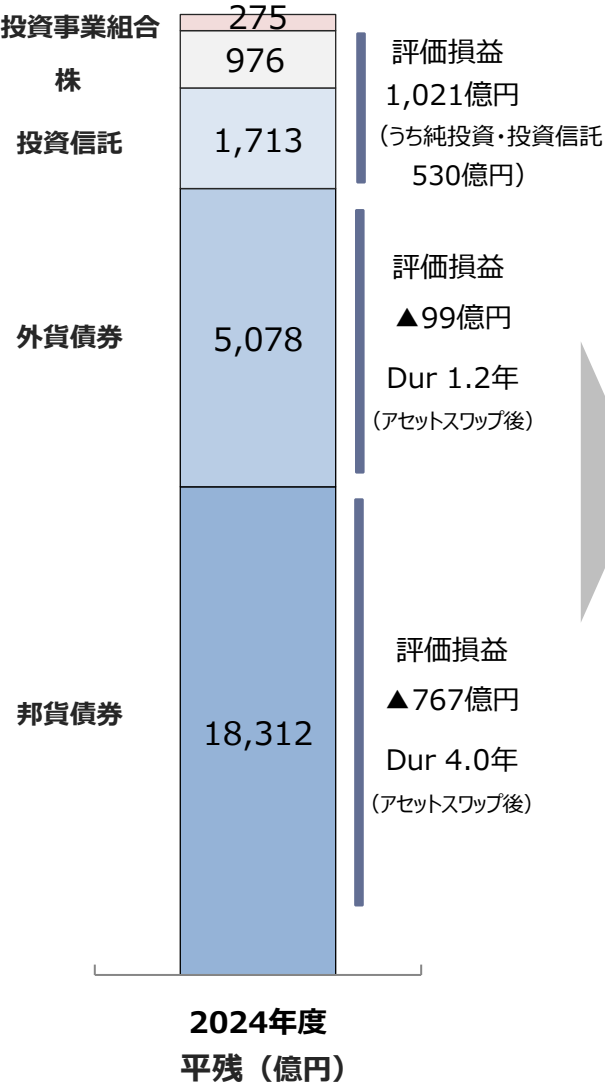
市場性運用

高度なノウハウ・知見を通じて
多様な案件へ取組み

マーケット環境に応じて
有価証券と一体で運用

適切なリスク・リターンにより
高い収益性を確保

有価証券運用の取組み



外貨債券

引続き金利リスクを抑制して運用

※米国FF金利の高止まり（4%水準）を想定

対応済

邦貨債券

① 保有債券入替によるポートフォリオ改善の継続

- ・償還分への再投資

償還見込み（'25年度～'27年度）

- ・年間 約1,500億円～2,000億円
- ・利回り 約0.2～0.3%

・低利回り債の戦略的な入替

株、投資信託の評価益余力も活用

② 戦略的な金利リスクテイク

- ・24下～25下にかけて時間分散を図りながら購入

合計3,000億円（利息 約30億円以上）の積上げ

※IRRBB余力「低下シナリオ ▲EVE302億円（25.3末）」

※評価損益の変動は総自己資本（Tier2資本含む）でカバー

利回り改善

追加投資

金利ある世界での
最適なポートフォリオを構築

貸出金

RORA引上げに向けた取組み

本部
ストラクチャード
ファイナンス

約1.3兆円、RORA1.72%
(戦略運用・市場性運用)

都市部
コーポレート
シ・ローン

約0.8兆円、RORA0.57%
(東京・大阪)

コントロール

- ✓ RORA共通目線
- ✓ SP引上げの強化
- ✓ 低RORA案件の抑制
- ✓ 段階的な入替
など

資産効率の
改善

RORA・ROA向上
を加速

有価証券

低利回り債の着実な入替

株式（純投資）、投資信託の
含み益を活用しカバー



時期	売却額	利回り	残存年数	売却損益
2024年度	約1,300億円	0.16%	5.4年	▲35億円
2025上期	約1,200億円	0.19%	4.3年	▲46億円
小計	約2,500億円	0.17%	4.9年	▲81億円
2025下期	約1,200億円	0.20%	3.7年	約▲50億円

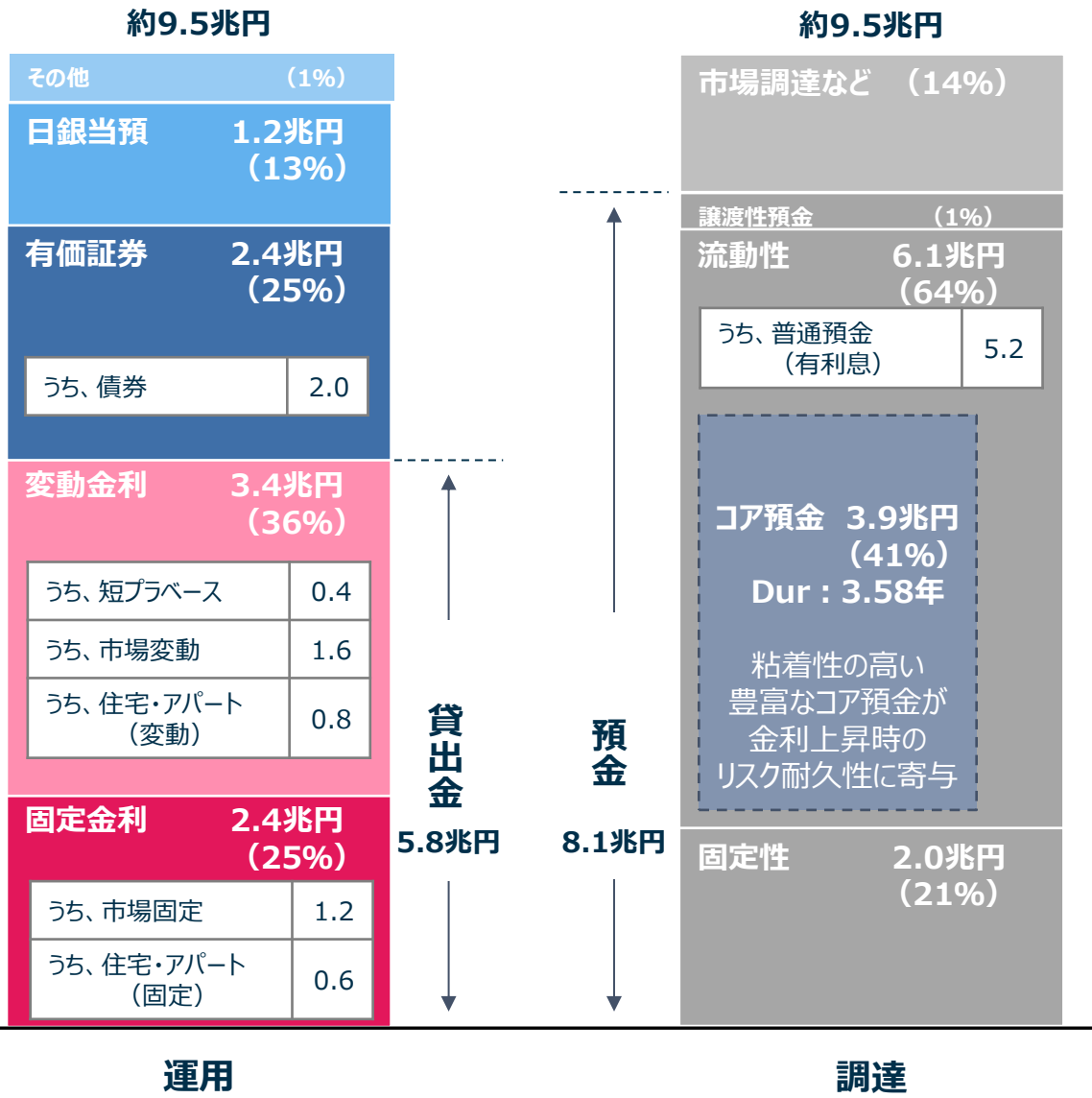
再投資による
利回り向上へ

資金利益
30億円以上
(改善額/年)

実績

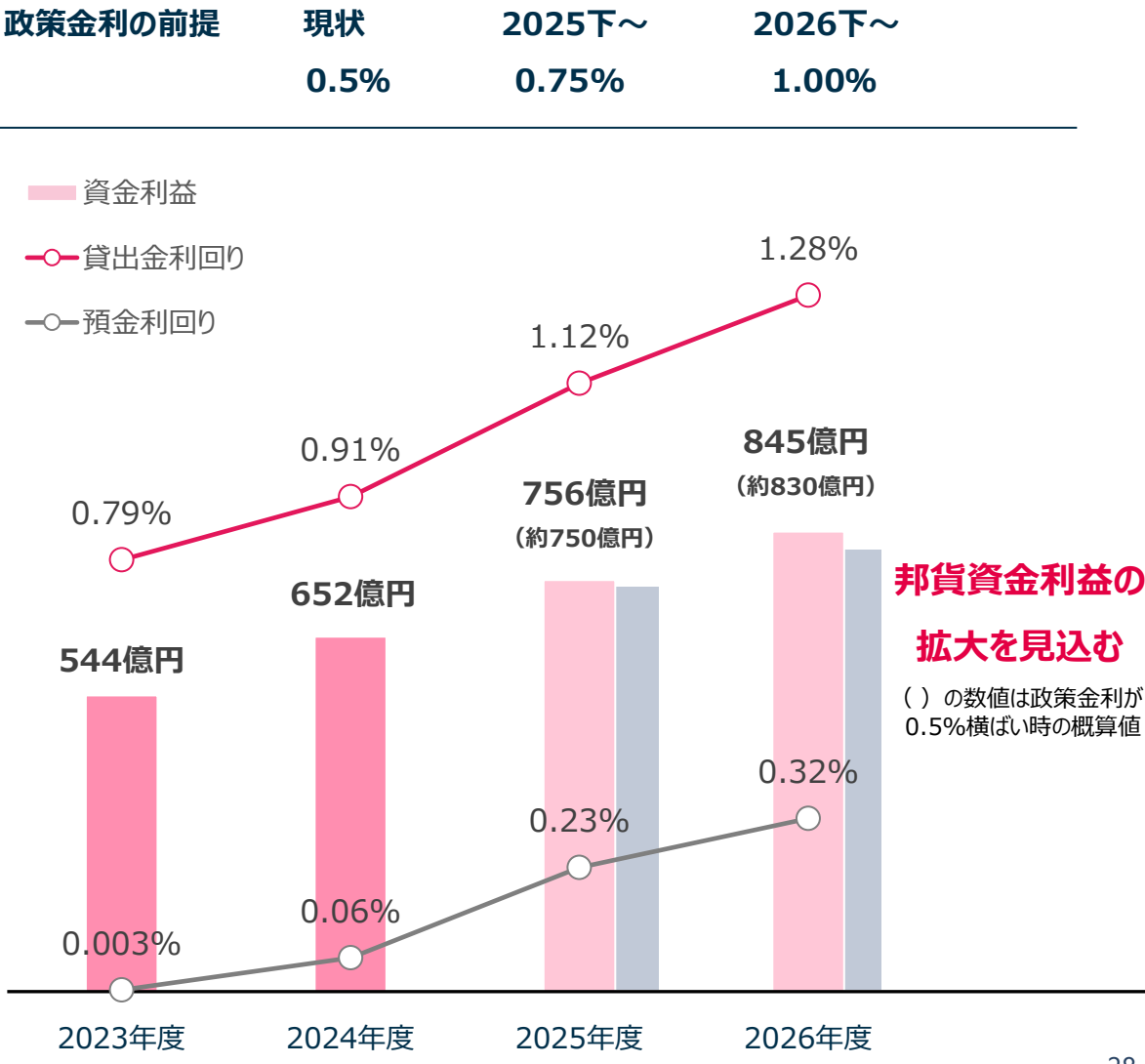
計画

邦貨バランスシート（'25中間平残：銀行単体）



邦貨資金利益の見通し

※計画上の残高増加を考慮



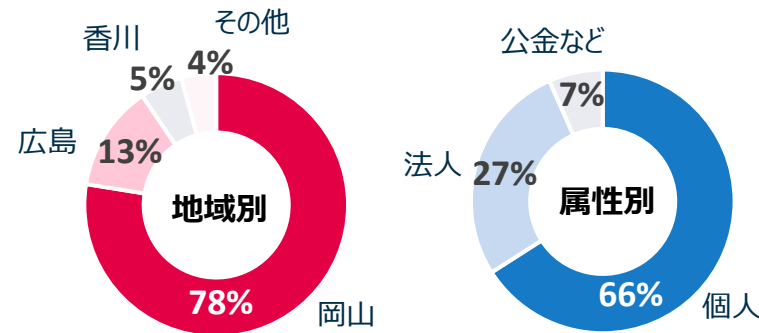
足元の状況

✓ 地元地域での強固なシェア

岡山県
預金シェア **51.5%**

【特徴】 地元地域におけるお客さまの生活口座（個人）、取引口座（法人）が中心

✓ 粘着性の高い安定した預金



粘着性の高い 預金獲得を強化

取組み

個人

新商品の導入

非対面ツールの利便性向上

法人

職域取引の拡大

預金シェア拡大に向けた営業強化

地域

ベースとなる地域の発展

▶ 調達基盤の安定へ

Topic

チャネル戦略

- ✓ 資産運用サポートデスク開設
現役世代を中心に接点強化
(平日夜間・休日営業)
- ✓ 西条支店（広島県）開設
お客さまとの接点拡充、利便性強化

業務プロセスの改革

方針・特徴

- ✓ グループ横断で検討
- ✓ 業務別にプロジェクト化
- ✓ グループ内のノウハウを活かして内製で対応

可視化した業務量

削減した業務量



目標
・ 業務のシフト（400名分）
・ 人員の戦略再配置（200名分）

- ・ 営業店（営業担当）
- ・ 新設ライフプランセンター
- ・ 本部企画部門 などへ

戦略再配置 事例

資産運用
サポートデスク
へ重点配置



注力分野への
業務シフト・戦略再配置を
着実に実行



SDGs×鏡野町

- 地方創生SDGsに係る包括連携協力に関する協定

SDGs×真庭市

- 地方創生SDGsに係る包括連携協力に関する協定
- 地域新電力会社の設立



SDGs×新庄村

- 地方創生SDGsに係る包括連携協力に関する協定
- 持続可能な森づくりを目指す造林事業
- DX推進支援事業

SDGs×高梁市

- 地方創生SDGsに係る包括連携協力に関する協定

SX×府中市

- 脱炭素社会実現に向けた地域経済分析および再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査業務

SX×福山市

- 地方創生に関する包括協定

SX×倉敷市

- 地方創生に関する包括協定

DX・SX・SDGs×三豊市

- AI・IoT等先端技術を活用した産業振興
- 脱炭素社会の実現に向けた連携に関する協定
- 持続可能でより魅力的な産業、三豊市農業の実現に向けた連携と協力に関する協定

SX×岡山県

- 地方創生に関する包括協定

SX×津山市

- 脱炭素先行地域申請支援業務

SX×西粟倉村

- 「脱炭素先行地域」共同提案
- 地域新電力会社の設立



SX×美作市

- 地方創生に関する包括協定

SX×和気町

- 地域の脱炭素に係る連携と協力に関する包括協定

DX・SX・SDGs×岡山市

- 地方創生に関する包括協定
- SDGs連携パートナーズ制度に係る普及及び登録事業者の取組み推進に関する協定
- 「エンパイ for 中国銀行」を公立幼保施設に導入
- 岡山市スマート窓口に向けたBPR業務の受託
- 岡山市令和7年度ゼロカーボン研究会運営業務の受託

SX×瀬戸内市

- 「脱炭素先行地域」共同提案
- 地域新電力会社の設立



SX×玉野市

- 地方創生に関する包括協定

※ 赤字はCキューブ・コンサルティングによる受託業務
青字はちゅうぎんエナジーによる出資

創業支援

地域を代表する企業の創出へ

✓ プログラム参加者数 約**470**名

✓ 新設法人数 **36**社

※2017年度～2025中間 累計

伴走支援

✓ 投融資実績 約**40**億円

※プログラム参加先への投融資（中国銀行、ちゅうぎんキャピタルパートナーズ）
※2017年度～2024年度累計額

創業エコシステム



地域課題の解決と ビジネスチャンス

リスクマネー供給（エクイティ支援）

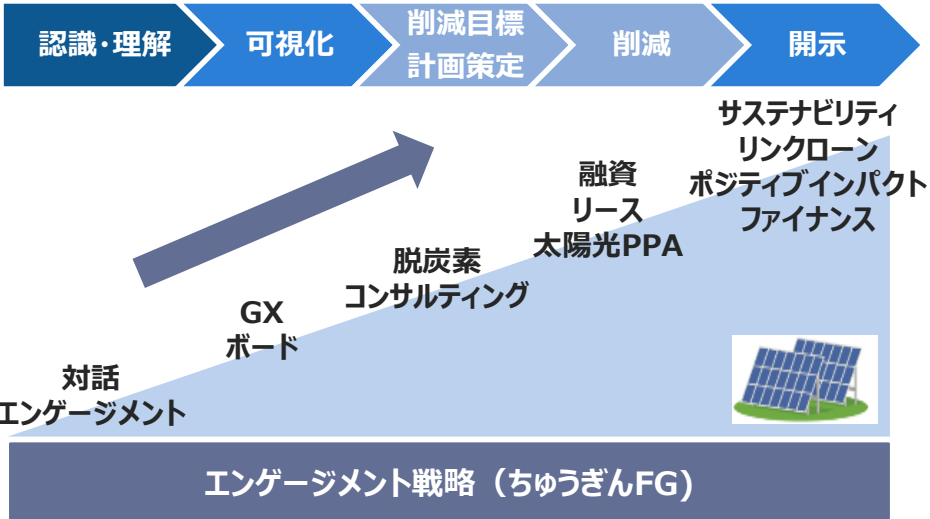
✓ インフィニティファンド 約**19**億円（スタートアップ**62**社 うち地元関連**31**社）

（ちゅうぎんキャピタルパートナーズ）

・岡山ならびに全国を対象に“地域課題解決型企業”をテーマに出資
地域にイノベーションと新しい価値を生み出す先進的企業との連携を通じて
地域社会の活性化を目指す。

脱炭素

地域のお客さま



Topic

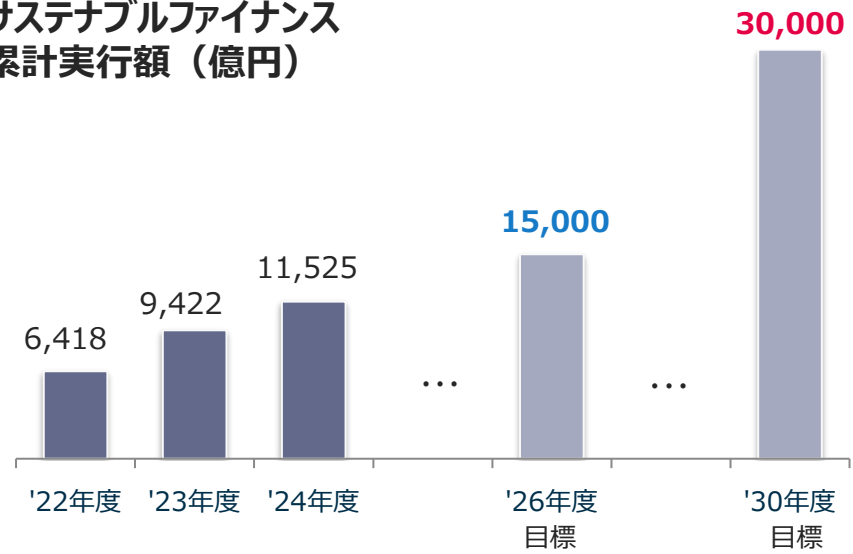
21世紀金融行動原則
2024年度 最優良取組事例
環境大臣賞 受賞



地域社会のカーボンニュートラル
実現に向けた行動変容への挑戦

地域課題の解決と
ビジネスチャンス

サステナブルファイナンス
累計実行額（億円）



太陽光PPAサービス
実績状況

※2025年9月末時点

ちゅうぎんエナジー

成約	49施設
設置容量	15.2MW
CO2削減量	6,741t-CO2/年

（約2,700世帯分相当の吸収量）
※今後設置予定分を含む

人手不足

当行行員の人材紹介サービス
(主に55歳以降の役職定年を迎えた行員)



Topic

日経リスキリングアワード2025

企業・団体イノベティブ部門



最優秀賞 受賞

- ・出向者を地域経済を支える「人的資本」と捉え、
地域へ還元することで地方創生の一端を担う
- ・「セカンドキャリア支援型」のリスキング

地域全体の女性活躍推進に向けた連携



Topic

- ・『女性リーダーが担う次世代経営セミナー』
- ・『女性がひらく地域と世界の可能性』

(関西万博登壇)

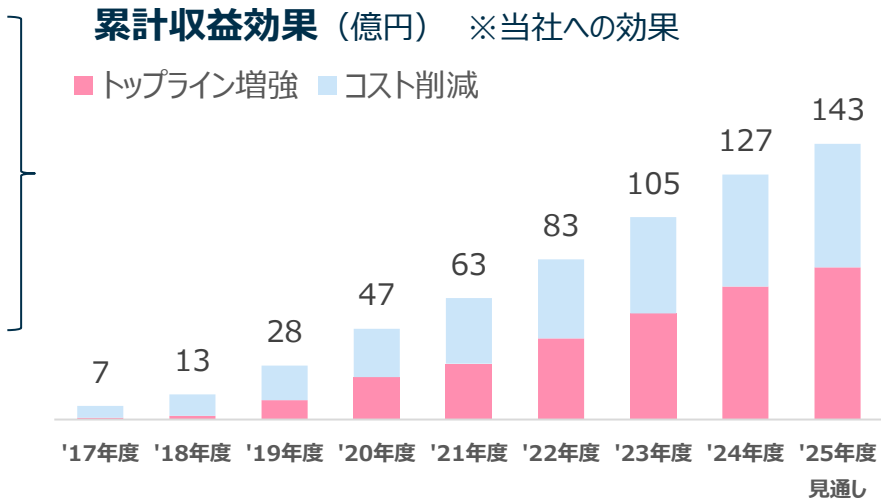
- ・事業承継、ダイバーシティ経営、若年層の県外
流出などの課題解決へ向けた発信

地域課題の解決と ビジネスチャンス

広域連携

● TSUBASAアライアンス

トップライン増強	協調融資
	相続関連業務
コスト削減	基幹系システム共同化
	TSUBASA FinTech共通基盤
業務の高度化	AML業務の高度化
SDGs	非化石証書の共同購入



地域の持続的発展に向けて
様々なステークホルダーと連携

地域連携

- おかやま未来共創アライアンス（中国銀行、岡山大学）
- 地域脱炭素創生・岡山コンソーシアム（岡山県内の産官学金が連携）
- おかやま共創パートナーシップ（中国銀行、トマト銀行、日本政策金融公庫、岡山県信用保証協会）
- 山陽地域のサステナビリティ推進に向けたパートナーシップ協定
（ちゅうぎんフィナンシャルグループ、ひろぎんホールディングス）

異業種連携

連携により
目指す方向性

- ✓ リソースの相互活用
- ✓ 成功モデルの横展開



地域・お客さまと
豊かな未来を共創

<連携事例>

- **リクルート**
「スーモカウンター」の利用者が住宅ローン優遇金利の適用を受けられるキャンペーンを実施。
- **マネーフォワードエクス**
地域金融機関向け法人サービスプラットフォーム『BANK Biz』の協業開発を開始。地域経済のデジタル化推進を目指し、当行が提供するビジネスポータルのリニューアルを予定（'26年秋）。
- **松尾研究所**
生成AIに関する共同研究を開始。地域企業の業務課題をAIで解決するためのサービス提供を目指す。
- **SAS Institute Japan 、コムチュア**
新たなアナリティクスAI基盤を導入。データ・AIの活用を促進し、お客さまへ高付加価値なサービスを迅速かつ的確に提供する体制の確立を目指す。

<今後の主な取り組み>

他社チャネルを
活用した商圈拡大

地元企業と連携した
事業スキーム検討

内製システムの
外販手法・体制の検討

BPOサービスの
地元企業への展開

異業種連携を通じて
従来の発想を超えた
新たな価値を共創

① 経営戦略に連動した人財育成

- ・ 注力分野への人財配置・育成
- ・ 専門性の高い人財の基盤構築 など

② エンゲージメント向上

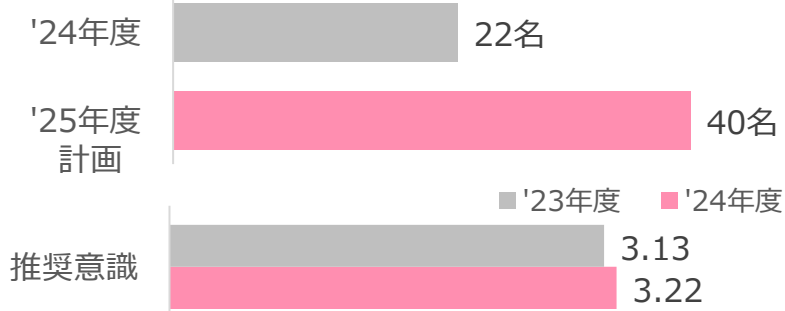
- ・ 従業員のウェルビーイング向上
- ・ 経営との一体感促進 など

投資拡大
年5億円⇒10億円

③ D&Iの実現 多様な人財の活躍、組織風土改革

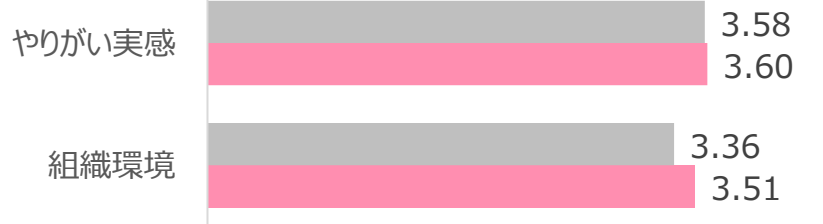
加速

① 外部企業への
長期研修者数
(若手・中堅社員)



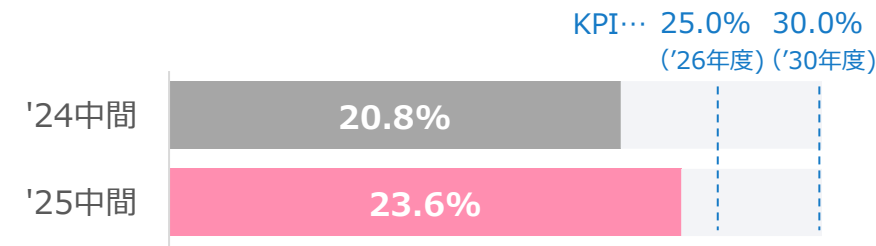
育成強化

② エンゲージメント
スコア
(5段階評価)



'23年度比
上昇

③ 女性管理・監督者比率
(BK単体)

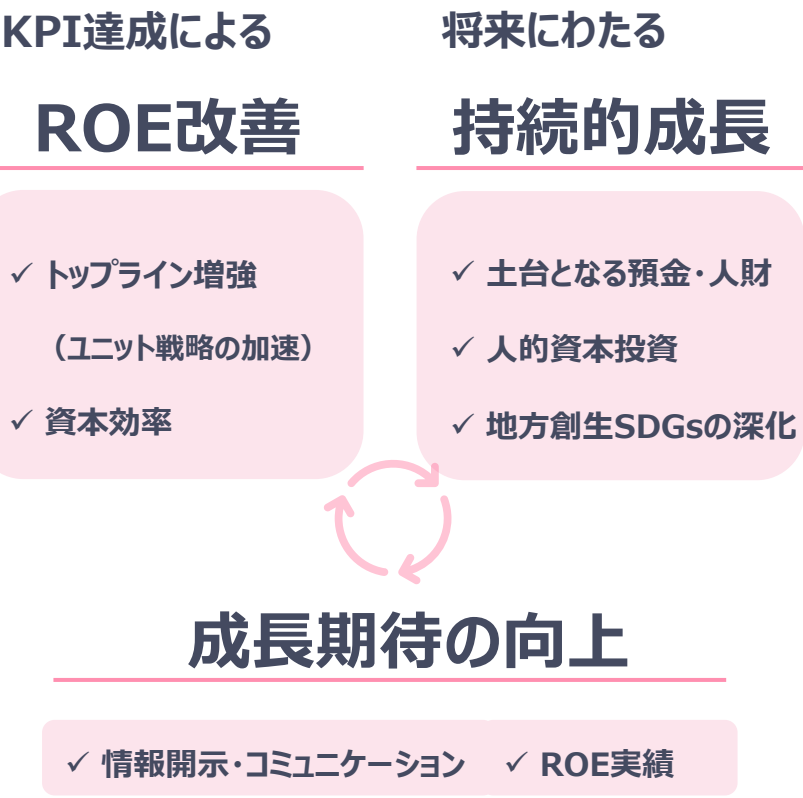


着実な
進捗

従業員への投資を拡大

	'24年度 実績	'25年度 見通し	'26年度 KPI
当期純利益	274億円	350億円	400億円以上
ROE	4.8%	約6.0%	7.0%以上
RORA	0.63%	約0.75%	0.8%以上
財務レバレッジ	7.8倍	約8.0倍	8.0倍以上
PER	11.5倍	約11.5倍 (横這いと仮定)	約11.5倍 (横這いと仮定)
PBR	0.55倍	約0.7倍	約0.8倍

企業価値の向上に向けて



PBR1倍超へ

資本コスト – 当社認識 –

PBR・ROE実績
による算定値

約 9%

CAPMによる
当社推定値

約 6~7%

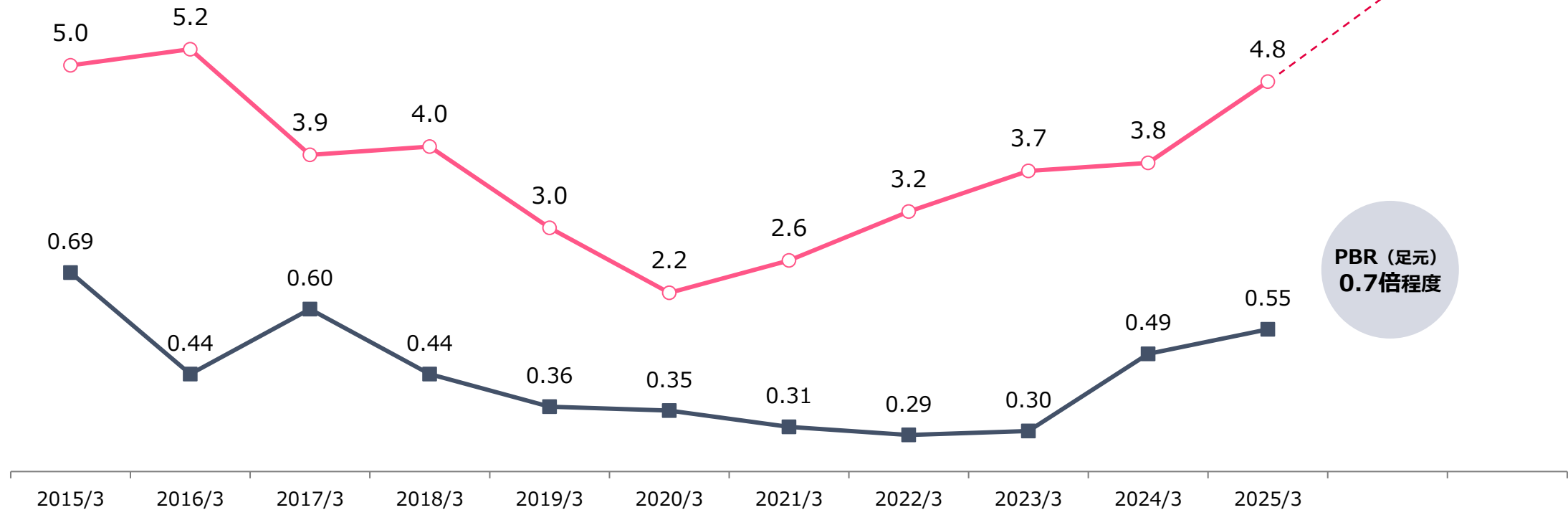
'26年度KPI
7%以上

○ ROE (%)

■ PBR (倍)

※ROE (東証ベース)
その他有価証券評価差額金を含む

PBR (足元)
0.7倍程度



第Ⅲ部

Appendix (主要計数)

資金利益を中心にトップラインが大きく拡大

※2025.5.14 公表利益

ちゅうぎんフィナンシャルグループ連結業績推移 (億円)	2023年度	2024年度	2025年度		
	中間	中間	中間	前年比	公表比※
連結粗利益	448	517	559	42	-
(債券関係損益除く)	461	537	601	64	-
資金利益	310	360	433	73	-
役務取引等利益	91	107	110	3	-
その他業務利益	47	49	15	▲ 34	-
うち、債券関係損益	▲ 12	▲ 20	▲ 42	▲ 22	-
経費 (▲)	284	288	323	35	-
与信費用 (▲)	38	37	35	▲ 2	-
株式関係損益	16	14	42	28	-
その他	8	4	9	5	-
経常利益	150	209	252	43	18
特別損益	▲ 0	▲ 0	▲ 2	▲ 2	-
親会社株主に帰属する中間純利益	104	146	173	27	15

アセット拡大、国内金利上昇等により資金利益が大きく増加

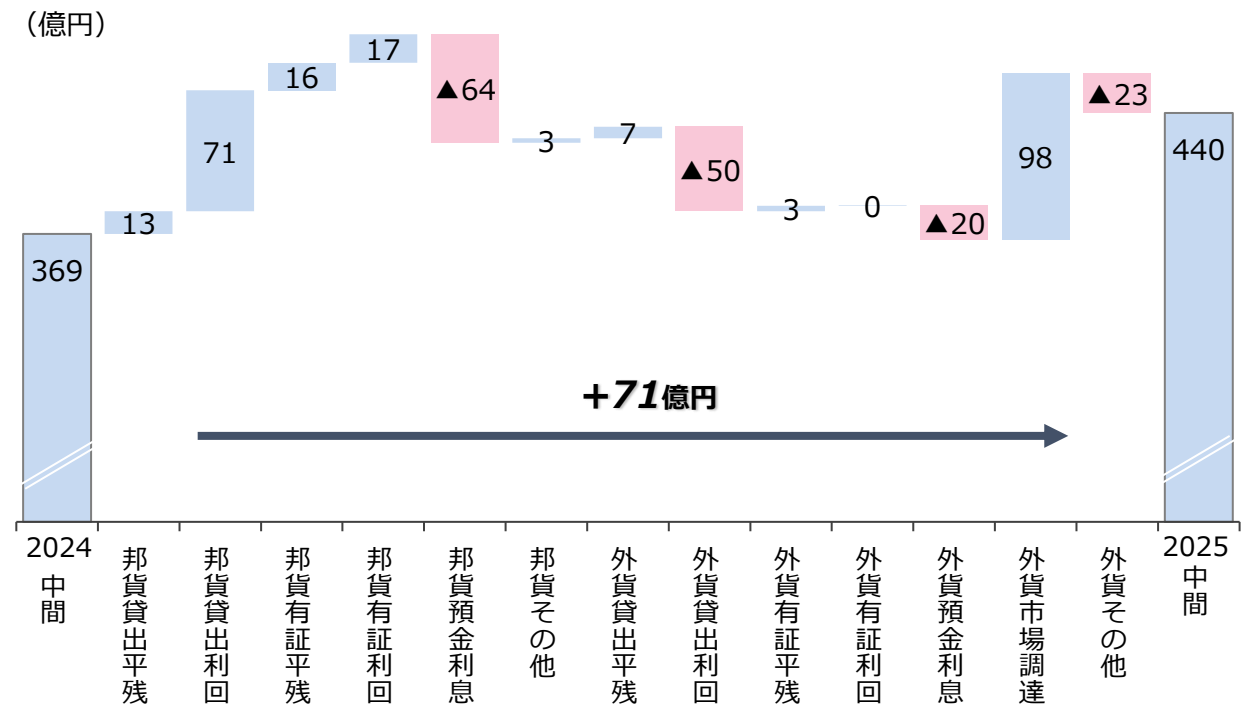
中国銀行 単体 (億円)		2023年度 中間	2024年度 中間	2025年度 中間	前年比
コア業務粗利益		421	497	564	67
資金利益		310	369	440	71
役務利益		99	115	116	1
その他業務利益		11	12	6	▲ 6
経費(▲)		260	267	301	34
O H R		61.9%	53.7%	53.3%	▲ 0.4 p t
コア業務純益		160	230	263	33
除く投信解約損益		160	230	274	44
与信費用 (▲)		36	35	33	▲ 2
有価証券関係損益		3	▲ 5	▲ 0	5
その他		1	2	5	3
経 常 利 益		129	191	234	43
中 間 純 利 益		90	137	165	28

大口案件の剥落（中銀リース）、市況の悪化（中銀証券）が影響し、経常利益・純利益ともに前年同期比で減益

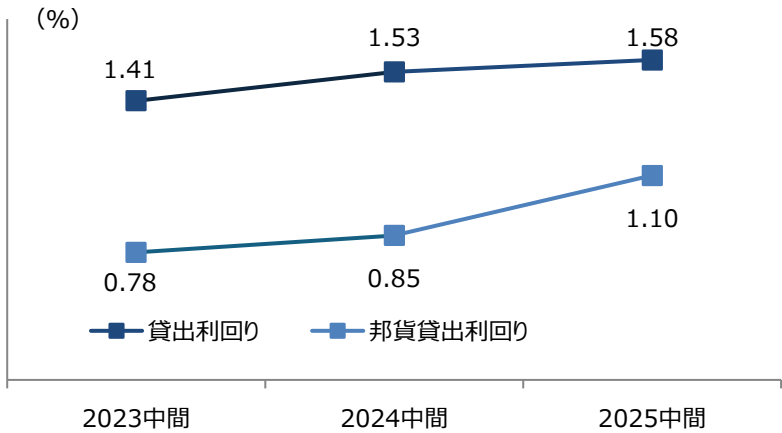
グループ会社	(億円)	経常利益	前年比	純利益	前年比
中銀リース		2.8	▲4.7	1.8	▲3.0
中銀カード		1.0	▲0.0	0.6	▲0.0
ちゅうぎんヒューマンイノベーションズ（職業紹介）		0.0	0.1	0.0	0.0
ちゅうぎんキャピタルパートナーズ（ファンド運営・管理）		0.2	0.1	0.2	0.0
Cキューブ・コンサルティング（DX・SX等コンサル）		0.1	▲0.4	0.1	▲0.4
ちゅうぎんエナジー（再エネ発電など脱炭素支援）		▲0.1	0.0	▲0.2	0.0
中銀証券		4.1	▲1.5	2.8	▲1.0
中銀アセットマネジメント		1.1	0.1	0.8	0.0
中銀事務センター		0.1	▲0.1	0.1	▲0.0
CBS（銀行関連事務受託）		0.6	▲0.5	0.4	▲0.3
中銀保証		10.0	0.8	6.8	0.8
グループ会社合計		20.4	▲5.9	13.8	▲3.9

【資金利益 増減要因】

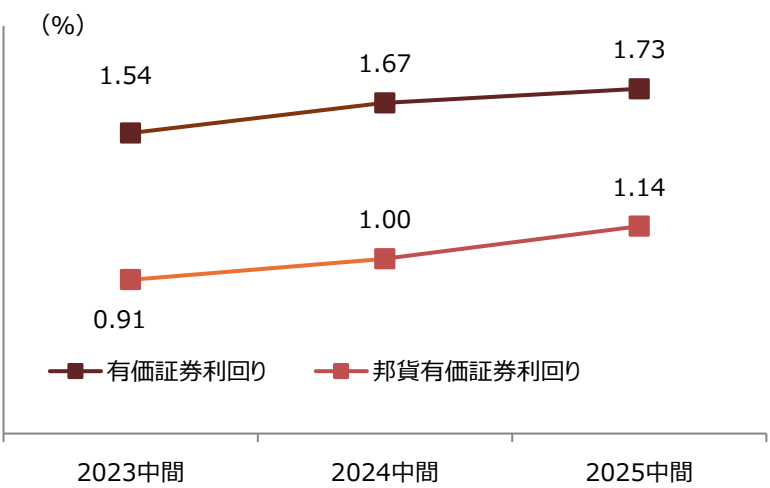
■ 邦貨374億円（前年比+56億円）				■ 外貨66億円（前年比+15億円）			
・貸出金利息	前年比	+85億円		・貸出金利息	前年比	▲42億円	
・有価証券利息	前年比	+32億円		・有価証券利息	前年比	+3億円	
・預金利息（▲）	前年比	+64億円		・預金利息（▲）	前年比	+20億円	
・市場運用調達等	前年比	+3億円		・市場運用調達等	前年比	+74億円	



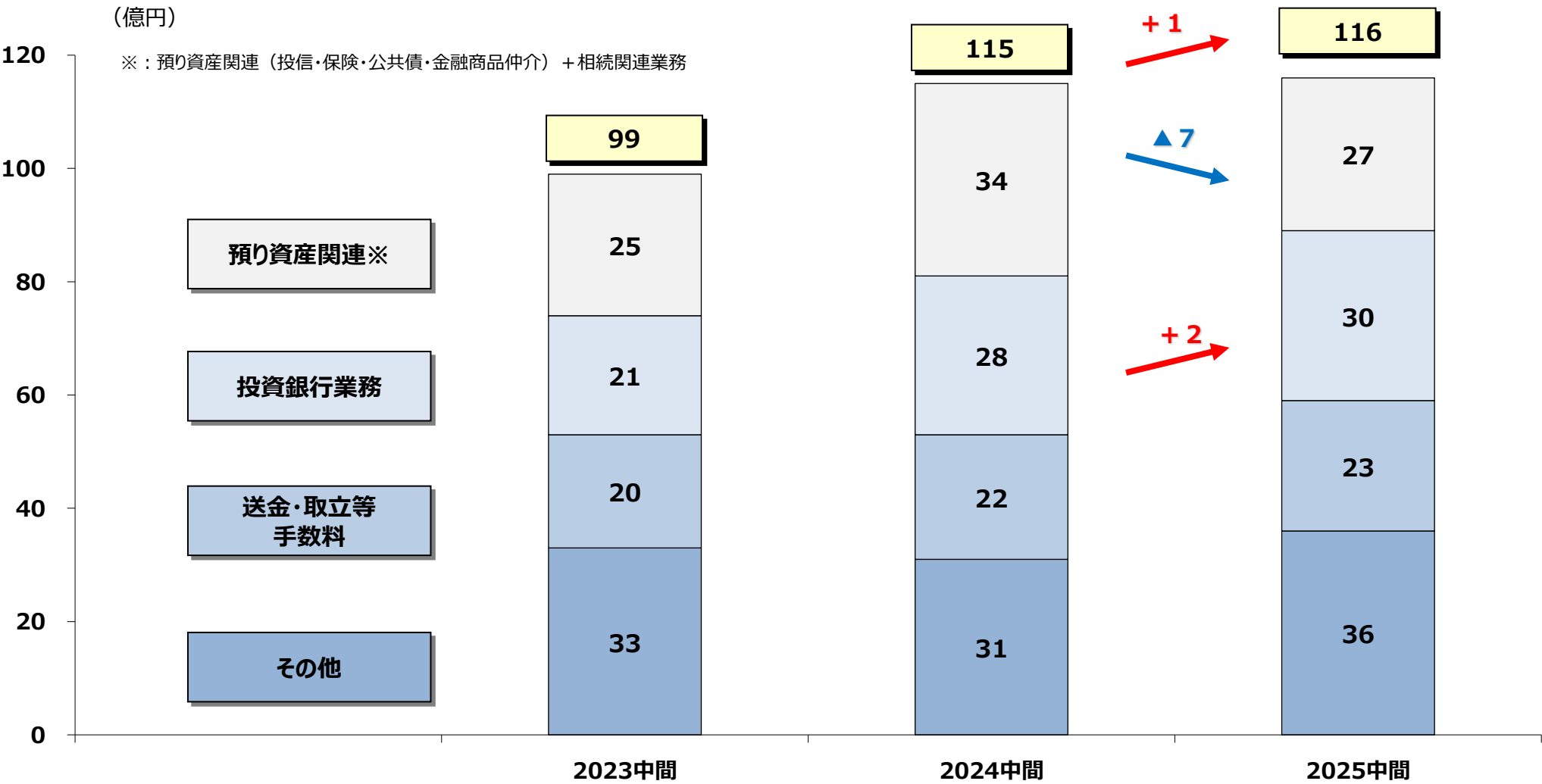
【貸出利回り】



【有価証券利回り】



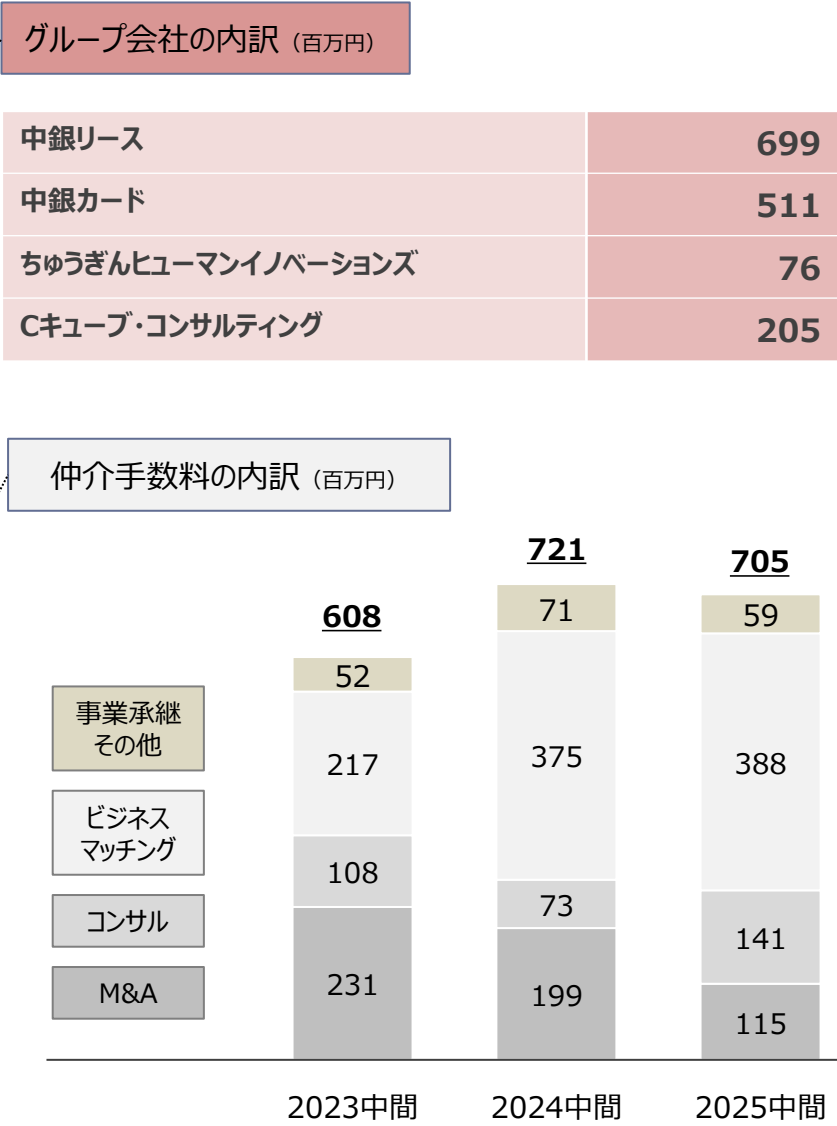
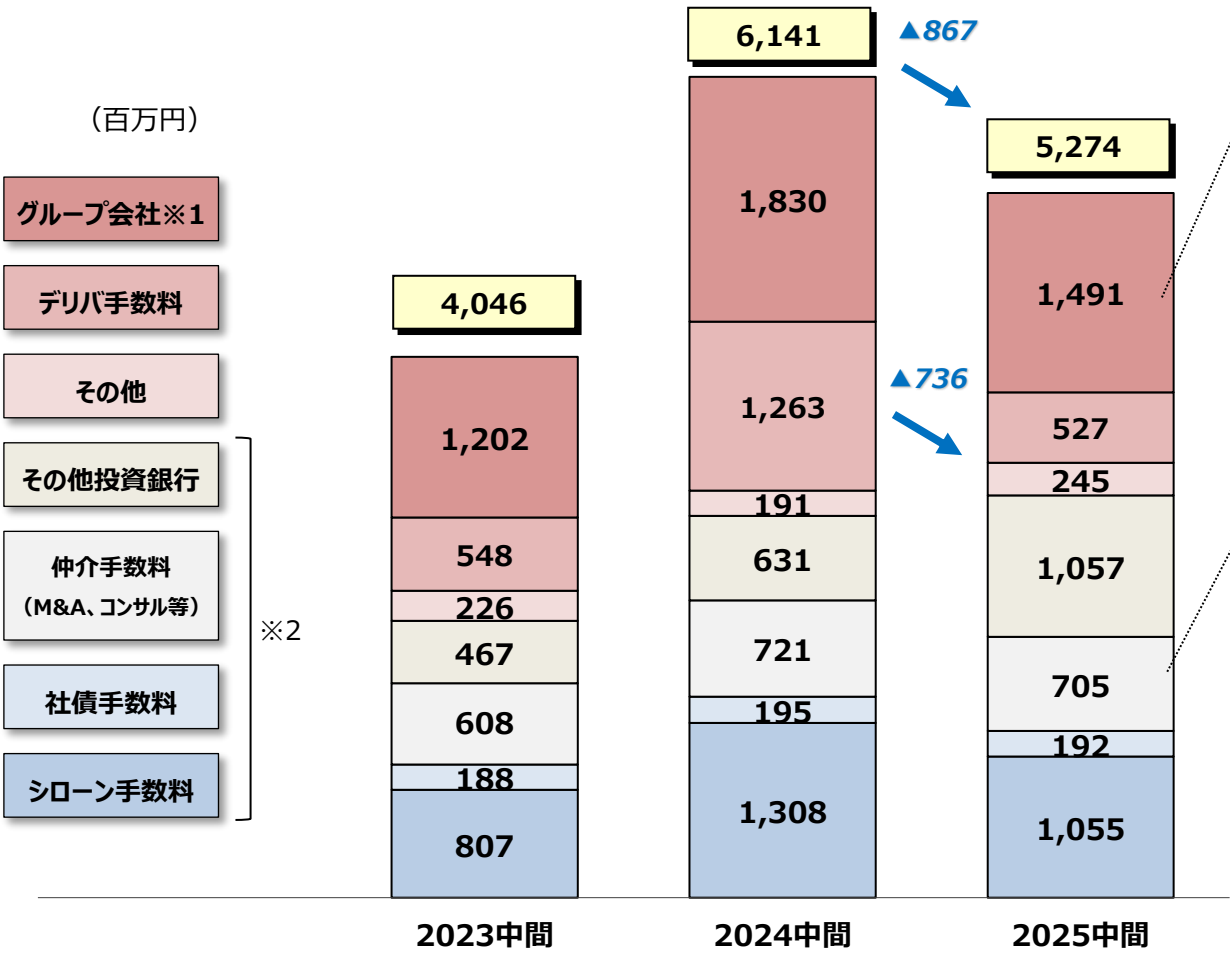
【役務利益 推移】



【法人ソリューション関連収益の推移】

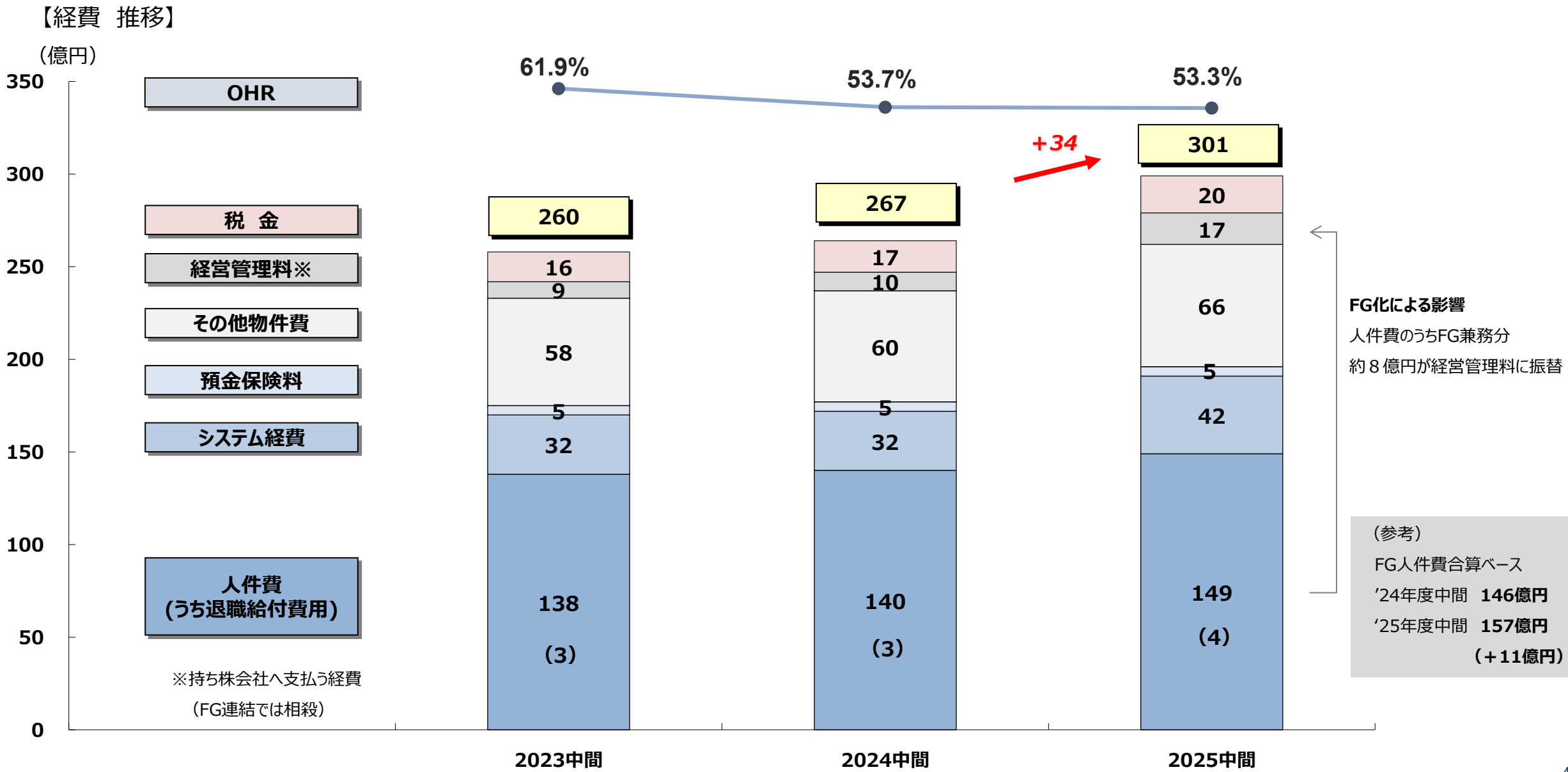
※1：中銀リースは粗利益、それ以外の会社は営業収益（内部取引控除後）

※2：役務利益に計上される投資銀行業務



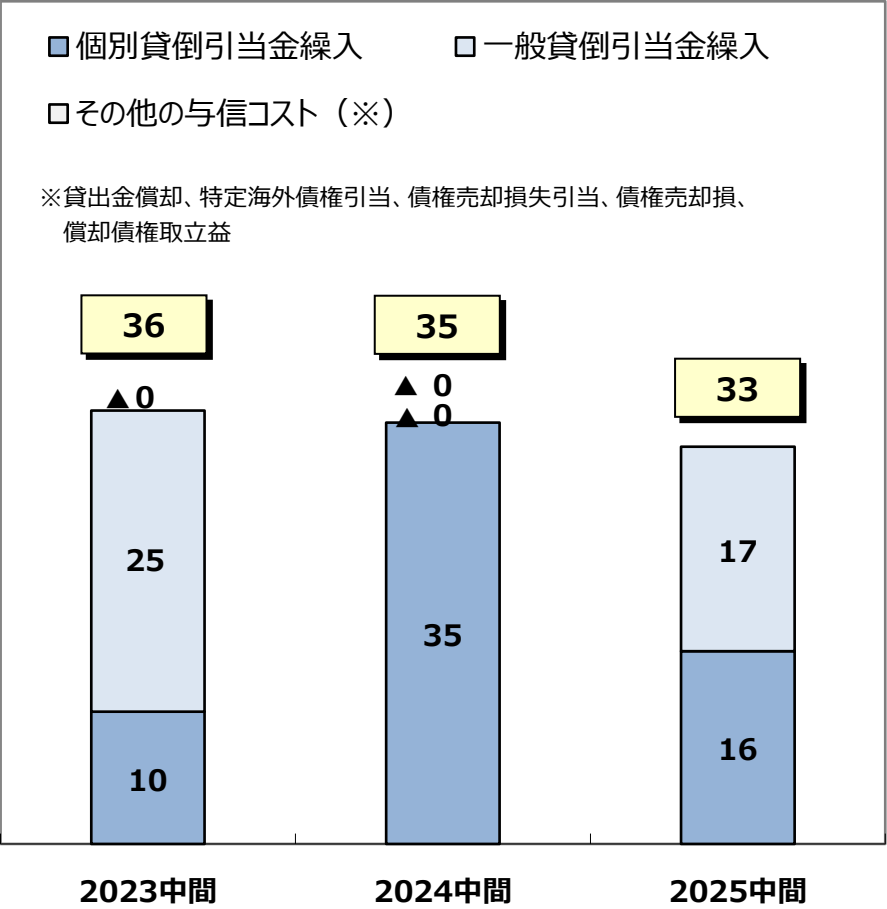
※1：中銀証券、中銀アセットマネジメントの営業収益（内部取引控除後）





【与信コスト 推移】

(億円)

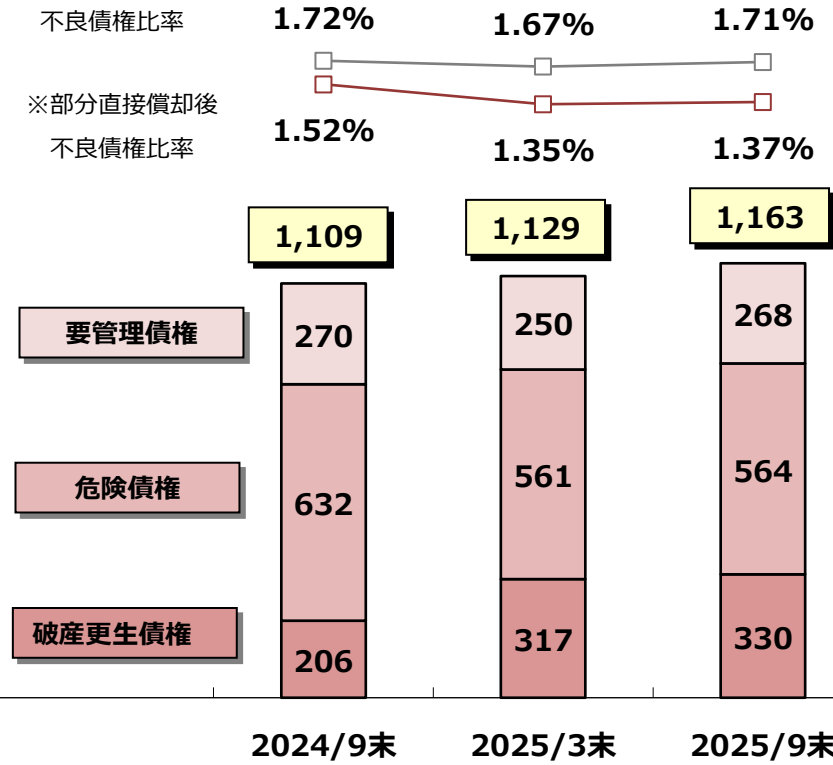


■一般貸倒引当金の算定方法

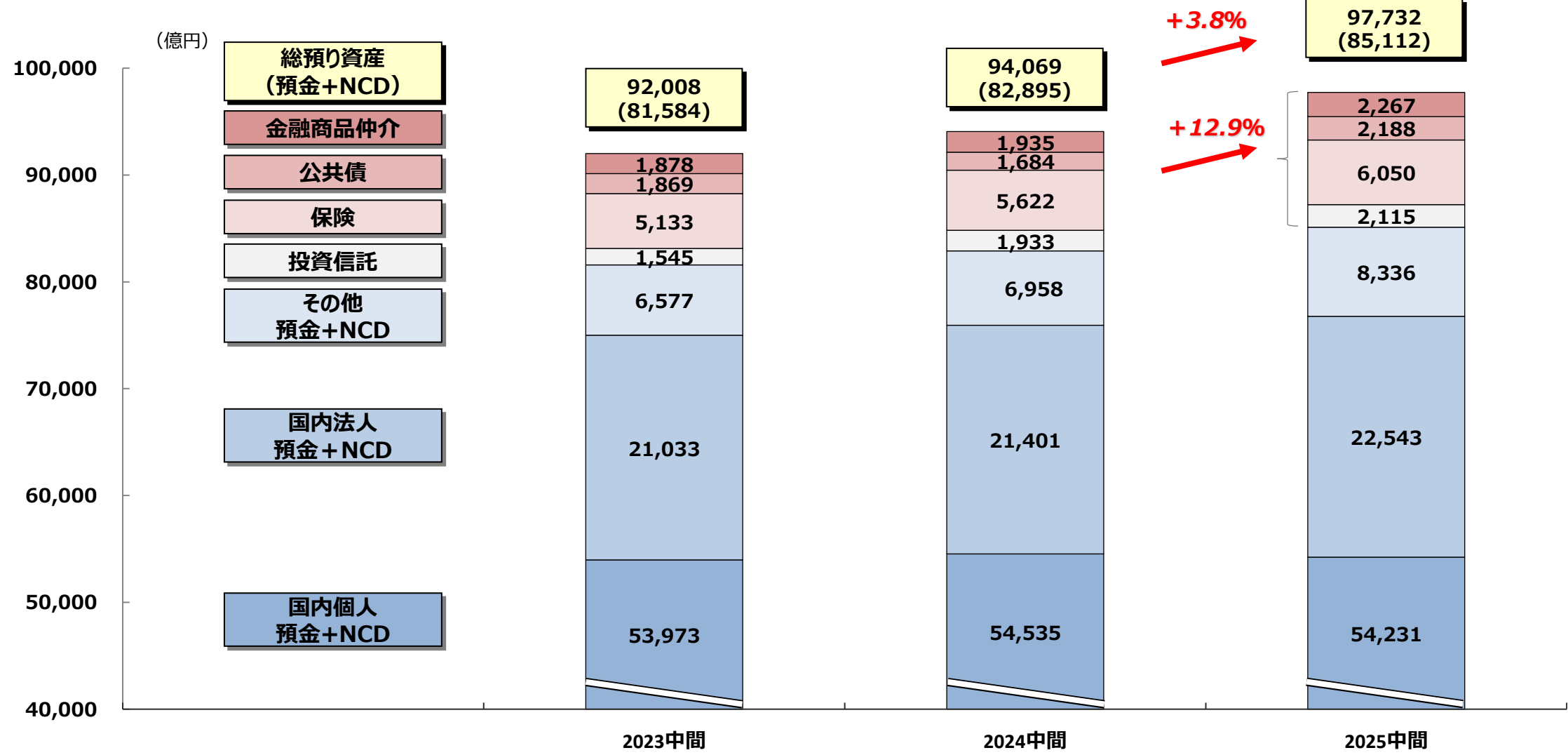
- ・3年間を1算定期間とし、各貸倒実績率から予想損失率を算出。(各算定期間は半年ずらし)
- ・予想損失率は、「直近3算定期間平均」、「直近5算定期間平均」、「2008/9期を期首とした長期平均」のいずれか高いものを使用。(2022/9期より変更)
- ・「正常先」・「要注意先Ⅰ」債権については、貸出債権の平均残存年数を考慮した調整を行っている。

【不良債権の状況 (金融再生法開示債権)】 (億円)

※当行では部分直接償却を実施していません。

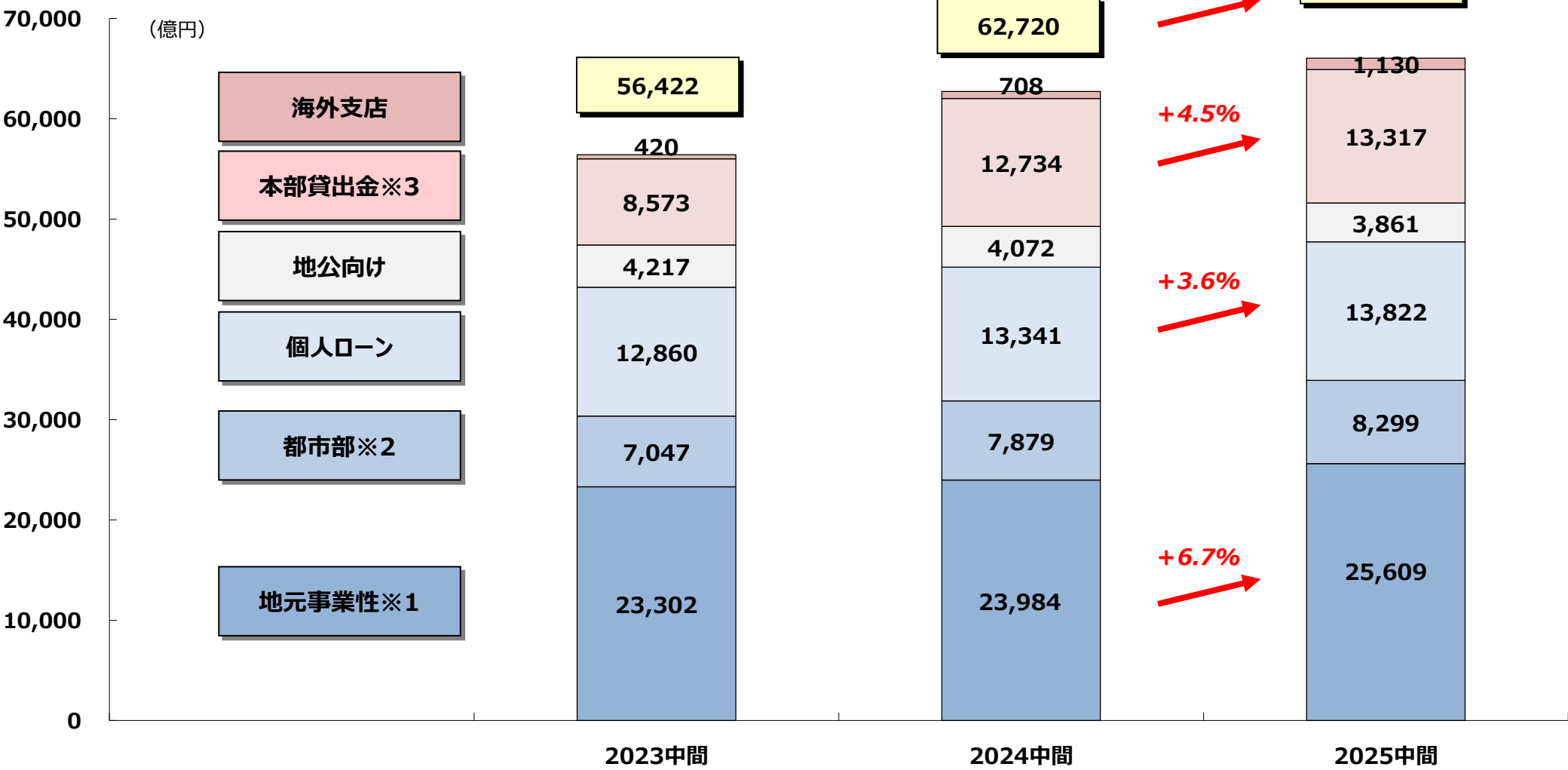


【預金・預り資産 平残推移】



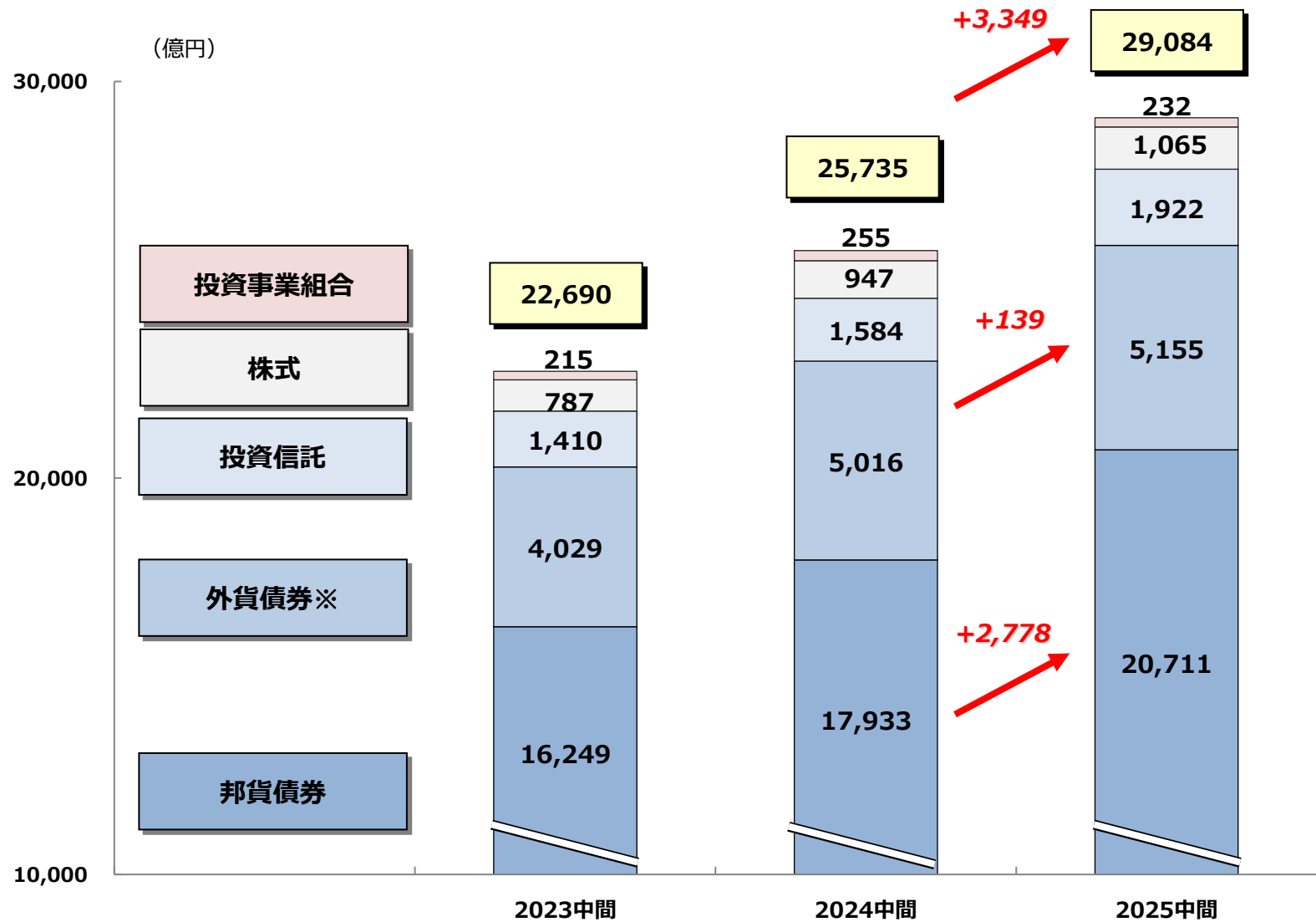
※金融商品仲介は取得価額ベース。公共債は額面ベース。保険は解約を考慮したベース。投資信託（確定拠出年金含む）は純資産ベース。

【貸出金 平残推移】



※ 1 地元：東京・大阪以外の地区 ※ 2 都市部：東京・大阪 ※ 3 本部貸出金：ストラクチャードファイナンス部

【有価証券 平残推移】

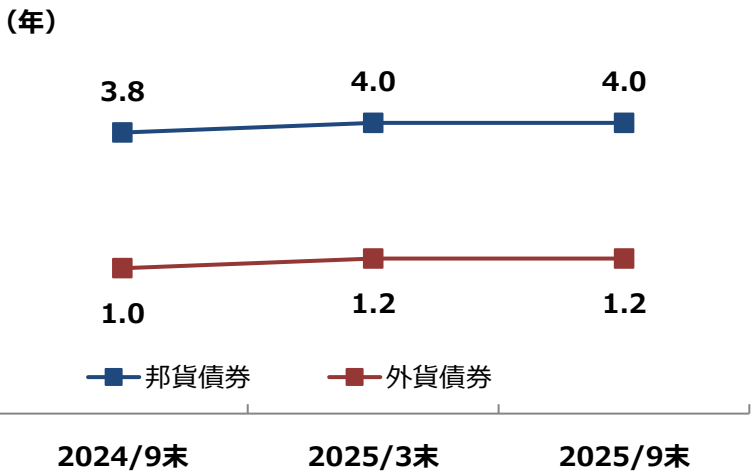


※外貨債券：外貨投信含む

【評価損益】

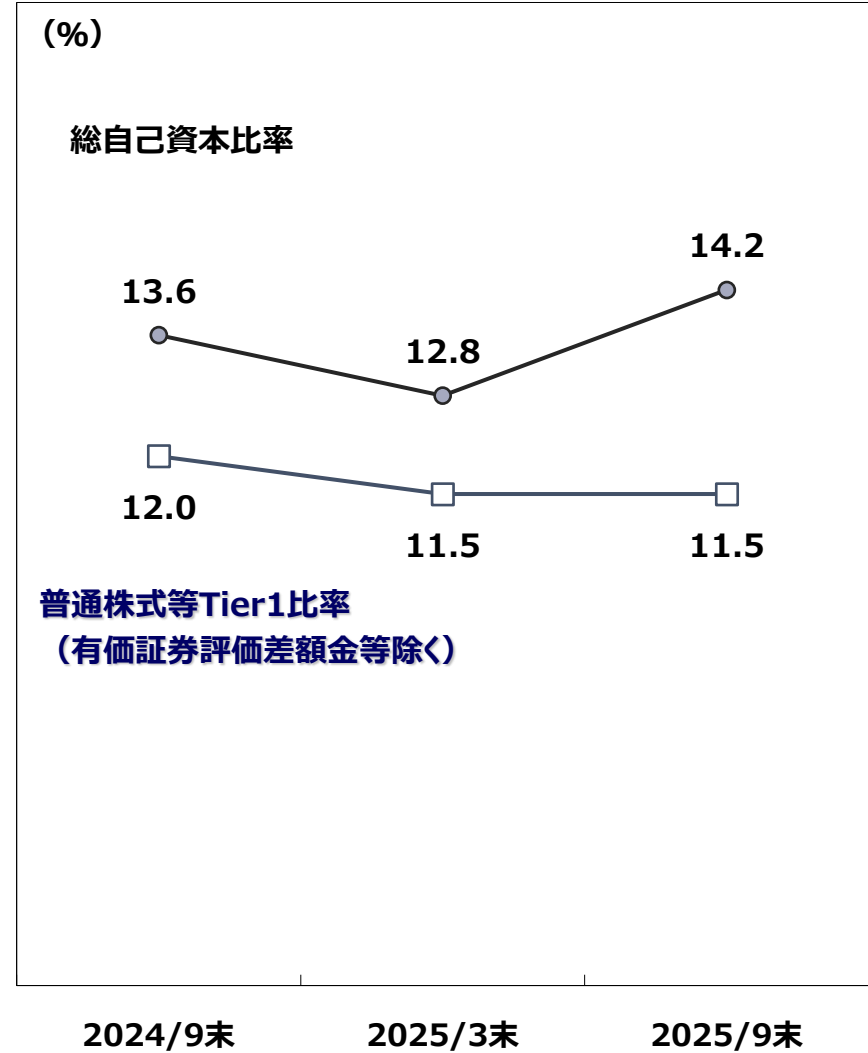
(億円)		2024/9末	2025/3末	2025/9末	前期末比
合計		644	125	725	600
有価証券		638	▲ 181	250	431
満期保有目的		▲ 3	▲ 23	▲ 25	▲ 2
その他有価証券		641	▲ 157	276	433
うち株式		676	661	949	288
うち投信		436	360	681	321
うち外貨債券		▲ 51	▲ 131	▲ 116	15
うち邦貨債券		▲ 422	▲ 1,041	▲ 1,255	▲ 214
アセットスワップ		6	307	475	168
外貨金利スワップ		▲ 44	32	31	▲ 1
邦貨金利スワップ		50	274	443	169

【債券デュレーション】



(有価証券評価差額金等除く) 普通株式等Tier1比率は、概ねコントロールレンジ (11%~12%) の中位で推移

【比率推移 (FG連結)】



【自己資本 (FG連結) の状況】

	(億円)	2025/3期	2025/9期	対比
総自己資本		5,649	6,413	764
うち、普通株式等Tier1		5,199	5,731	532
うち、有価証券評価差額金等※		124	547	423
リスクアセット等		43,801	45,045	1,244
信用リスク		42,847	44,054	1,207
オペレーショナル・リスク		954	990	36

※有価証券評価差額金および繰延ヘッジ損益 (有価証券を対象とするもの)

【その他のバーゼル規制】

	2025/3期	2025/9期	<規制水準>
連結 レバレッジ比率	5.20%	5.65%	3.15%以上
連結 流動性カバレッジ比率 (LCR)	132.6%	158.5%	100%以上



この挑戦が、未来となる。

ちゅうぎんフィナンシャルグループ

本資料には将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

本件に関するお問合せ先

株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループ 経営企画部 松尾・井上

TEL : 086-234-6519

Eメール : souki01@chugin.jp